

平成30年度

外部評価委員会報告書

久留米工業高等専門学校

まえがき

久留米工業高等専門学校長 三 川 譲 二

久留米工業高等専門学校外部評価委員会は、前身の「自己点検・評価協力者会議」（平成４年度設置）、「外部評価協力者会議」（平成１４年度設置）の後を受けて、平成１８年度から現在の形となり、活動を継続しております。そして、これまで、外部評価委員の皆様から本校の教育・研究、学校運営に関して様々でかつ貴重なご指摘やご意見を賜り、その都度、それらを学校運営の改善に役立たせていただいております。

平成３０年度の外部評価委員会では、江崎副校長・企画主事から「前年度の指摘事項について」、辻副校長・教務主事から「教育の現状と改善について（受験生獲得のために）」及び越地キャリア支援室長から「就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて」の３つのテーマについて報告させていただいた上で、ご評価をいただきました。とりわけ、辻副校長及び越地支援室長の報告は、本校の入口と出口に相当するもので学校運営において極めて重要な課題だと認識しております。

私どもがもつ教育の公共性・社会性に鑑みますと、外部の有識者の皆様からのご指摘やご意見に謙虚に耳を傾けることは至極当然のことであり、かつ、学校運営上においても欠くことができないことでもあります。今回の外部評価委員会においていただいた芳しいご評価についてはそれを励みとし、問題点のご指摘についてはそれを真摯に受け止め、いずれをも本校の学校運営と教育・研究の継続的な改善に役立たせていただきたく存じます。

同時にまた、本外部評価委員会報告書を外部に公開し、本校の学校運営の透明性を担保するという課題にも応えて参りたいと考えております。

関係各位におかれましては、久留米高専の教育・研究、学校運営について、今後とも忌憚のないご指摘・ご意見を賜ることができれば幸いです。

結びに、ご多用中のところ、委員会にご臨席賜りました外部評価委員の皆様には、厚く御礼申し上げます。とりわけ、外部評価委員長として議事進行とご講評の取りまとめ等の労をお取り下さいました九州大学大学院工学院院长久枝良雄先生には深く感謝申し上げます。

目 次

まえがき

1. 外部評価委員会委員名簿	4
2. 外部評価委員会出席者名簿	5
3. 外部評価委員会規程	6
4. 外部評価委員会日程	7
5. 開会挨拶	8
6. 委員紹介	8
7. スケジュール説明及び資料確認	9
8. 議長選出	9
9. 議事	
(1) 前年度の指摘事項について	9
(2) 教育の現状と改善について	11
(3) 就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて	12
(4) 全体質疑	15
(5) 講評	17
10. 閉会挨拶	19
11. 外部評価の結果	20
(1) 評価点	21
(2) 意見・提言	23
12. 説明資料	
(1) 前年度の指摘事項について（副校長／企画主事）	27
(2) 教育の現状と改善について（副校長／教務主事）	39
(3) 就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて（キャリア支援室長）	53

久留米工業高等専門学校外部評価委員会委員名簿

平成30年12月 現在
(敬称略)

氏 名	所 属	職 名
久 枝 良 雄	九州大学	大学院工学研究院長
原 田 明	九州大学	大学院総合理工学研究院長
永 田 見 生	久留米大学	学 長
今 泉 勝 己	久留米工業大学	学 長
坂 本 満	産業技術総合研究所	上席イノベーションコーディネータ
中 島 年 隆	久留米市	副 市 長
岩 崎 義 和	(株)ブリヂストン	九州生産本部長兼工場長
中 川 修 三	大電(株)	総務部長
西 田 正 典	久留米市中学校長会	会長(市立諏訪中学校長)
平 田 敬一郎	(株)久留米リサーチ・パーク	常務取締役

平成30年度外部評価委員会出席者名簿

(敬称略)

外部評価委員

委員長	久 枝 良 雄	九州大学大学院工学研究院長
委員	原 田 明	九州大学大学院総合理工学研究院長
委員	今 泉 勝 己	久留米工業大学長
委員	坂 本 満	国立研究開発法人産業技術総合研究所 上席イノベーションコーディネーター
委員	中 島 年 隆	久留米市副市長
委員	富 澤 章	株式会社ブリヂストン久留米工場九州生産本部総務部長 (岩寄義和 九州生産本部兼九州工場長代理)
委員	中 川 修 三	大電株式会社 総務部長
委員	西 田 正 典	久留米市中学校長会会長 諏訪中学校長
委員	平 田 敬一郎	株式会社久留米リサーチ・パーク 常務取締役

学校側参加者

校 長	三 川 讓 二
教務主事・副校長	辻 豊
企画主事・副校長	江 崎 昇 二
学生主事・校長補佐	石 丸 良 平
寮務主事・校長補佐 兼 制御情報工学科長代理	小 田 幹 雄
専攻科主事・校長補佐	奥 山 哲 也
機械工学科長	中 武 靖 仁
電気電子工学科長	池 田 隆
生物応用化学科長	梶 隆 彦
材料システム工学科長	川 上 雄 士
一般科目（文科系）学科長	安 部 規 子
一般科目（理科系）学科長	松 田 康 雄
総合情報センター長	加 藤 直 孝
図書館長	宮 本 久 一
産学民連携テクノセンター長・校長特別補佐	中 畷 裕 之
学生相談室長	福 田 かおる
キャリア支援室長	越 地 尚 宏
事務部長	寺 田 浩 一
総務課長	津 田 雅 弘
学生課長	前 田 俊 哉

久留米工業高等専門学校外部評価委員会規程

(平成16年7月23日制定)

(設置)

第1条 久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）に学外の有識者による外部評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(目的)

第2条 委員会は、校長が付託する事項について検証、評価を行ない、本校の教育・研究の改善に資するため、提言を行なうことを目的とする。

(組織)

第3条 委員会は、本校の振興発展に関心と理解のある学外有識者のうちから、校長が委嘱した委員をもって組織する。

2 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。なお、委員の職にある者が任期中、転退職した場合、後任者が引き継ぐものとする。この場合、委員の任期は前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、校長が委嘱する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(報告)

第5条 委員会は、第2条の検証、評価が終了したときは、評価の結果を校長に報告するものとする。

(事務)

第6条 委員会の事務は、総務課総務課長補佐（総務担当）において処理する。

附 則

この規程は、平成16年7月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

平成30年度外部評価委員会日程

日 時 平成30年12月13日(木) 13:20~16:00
場 所 久留米工業高等専門学校 大会議室

13:20 開 会

13:20 開会の挨拶

13:25 委員の紹介及び進行スケジュールの説明

13:33 議長選出

13:35 議 題

(1)「前年度の指摘事項について」 (副校長／企画主事)

(2)「教育の現状と改善について」 (副校長／教務主事)

(3)「就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて」(キャリア支援室長)

15:40 講 評

15:55 閉会の挨拶

16:00 閉 会

開 会 挨拶

三川校長：本日は、外部評価委員の皆様におかれましては、ご多用中のところ、外部評価委員会にご出席賜り、厚く御礼申し上げます。また本委員会に先立ち実施しました施設見学にもご参加いただき、重ねて御礼申し上げます。

本日は、江崎副校長・企画主事から「前年度の指摘事項について」、辻副校長・教務主事から「教育の現状と改善について（受験生獲得のために）」及び越地キャリア支援室長から「就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて」の3つのテーマについて報告させていただいた上で、ご評価をいただくこととなっております。特に本校の教育の入口と出口については、重要課題と認識している次第でございます。

本来、私どもがもつ教育の公共性・社会性に鑑みますと、外部の有識者のご指摘やご意見に謙虚に耳を傾けることは、至極当然のことでございます。また、学校運営上欠くことができないことであることは十分承知しておりますが、こうして外部評価委員の皆様の前に立ちますと緊張感は拭えないところでございます。しかしながら、本日、良いご評価をいただきましたら、それを励みとしまして、おまた問題があるところのご指摘をいただきましたら、それを真摯に受け止めまして、改善を図って行きたいと考えているところでございます。それでは、限られた時間ではございますが、外部評価委員の皆様から忌憚のないご指摘とご評価を賜ればと存じております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

委 員 紹 介

津田総務課長から外部評価委員の紹介、並びに学校側出席者の紹介が行われた。

スケジュール説明及び資料確認

津田総務課長から本日の外部評価委員会のスケジュールの説明と配付資料の確認が行われた。

議 長 選 出

久留米工業高等専門学校外部評価委員会規程第4条第2項の規定に基づき、外部評価委員会委員長である久枝九州大学大学院工学研究院長が議長に選出された。



議 事

(1) 前年度の指摘事項について

久枝委員長：議長を仰せつかりました九州大学大学院工学研究院長の久枝でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。では、早速議事進行を務めてまいりますので、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。それでは、日程表に沿って議事を進めさせていただきます。まず、議題の1でございまして、「前年度の指摘事項について」江崎企画主事からご説明お願ひいたします。

(江崎企画主事から、資料「前年度の指摘事項について」(P 27～P 38)に基づき説明)



【質疑応答】

久枝委員長：どうも有り難うございました。今の件につきまして、何かご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

平田委員：自己点検評価書については、300を超える課題を抽出されていますが、プライオリティー付けはやられているのでしょうか。300を超える課題に対して、同じエネルギーを使うと、かなり無駄になる部分も出てきます。そこで、相関がある課題を纏めてプライオリティー付けを行い、重点課題として、その課題を解決すれば、付帯している課題も解決できる可能性も非常に高いと考えますが如何でしょうか。

江崎企画主事：課題が366項目というように感じられると思いますが、これは、12程の主となる担当部署がありまして、部署によって多少の違いはあるものの、私自身はそんなに多いとは思っていません。それは、この項目の中には、年間のルーチン作業的な校務も上がっていることが一つです。それともう一点ですが、この中で何が重要かという観点は、年度当初に校長から重点課題が示されており、プライオリティーを付けています。しかしながら、ご指摘のとおり、類似の課題も確かに多いことも事実ですが、これは高専機構が策定した年度計画との整合性を図

ることも必要であり、報告も必要となるので、各部署において漏れがないよう残しているという事情もございます。この自己点検評価書作成の取り組みは5年目になりますが、当初は200項目位でしたが、徐々に増えて来たのが現状です。しかしながら昨年度から除ける項目は除く方向で各担当部署に依頼しているところでございます。

久枝委員長：只今の説明に関連して、PDCAサイクルの中で課題抽出のところは、外部評価委員会、JABEE審査、機関別認証評価等がありますが、全ての課題に対応して366項目となっているのでしょうか。

江崎企画主事：そのとおりです。指摘項目等には全て対応させてあります。

久枝委員長：先程からの説明で366項目の課題があり、最初の200項目から増えているということは、解決した項目について「済」の表記や、項目から除くようなことはやられていないのでしょうか。

江崎企画主事：行っています。自己点検評価書に次年度に向けての対応を記載いただくこととしています。その記載内容を精査し、削除できるものは削除しています。

久枝委員長：その結果、どの程度の割合で減ってきているのでしょうか。

江崎企画主事：昨年度と比較した場合、10項目程度減っています。

久枝委員長：これだけの項目に取り組みだしたら、もっと減っても良いような気がします。重要と思われる部分については、ある程度解決されていても継続して対応するという事で記載されているという解釈でよろしいでしょうか。

江崎企画主事：各担当部署の考え方もございますが、私見を申し上げれば削除項目を増やしても良いとも考えますが、継続性があるために備忘録としての観点で、項目として残されている担当部署が多いのではないかと考えています。

久枝委員長：平田委員の意見にあったように、校長先生の方針を踏まえたプライオリティー付けは必要であり、また解決したことを整理していかないと負担増になると考えられます。

今泉委員：研究力の強化についての説明がありましたが、科研不採択者へのインセンティブ制度の導入や、リサーチアワーの確保は実現されているということでしょうか。

江崎企画主事：科研不採択者へのインセンティブ制度は、予算額は大きくありませんが、実際に導入しています。リサーチアワーについては、昨年度から実施した校内組織改革により、会議の曜日と時間を固定化し、リサーチアワーに対応出来る取り組みを実施しています。

久枝委員長：今の説明に関連することですが、科研不採択者へのインセンティブ制度の導入と言うのは、他の外部資金も含まれているのですか。科研費等については、申請するにもエネルギーを必要としますので、それに対して次年度も申請し獲得を目指すようインセンティブを与えるということですか。

江崎企画主事：そのとおりです。具体的には、先ず科研費の申請については、申請すれば5万円の研究費を配分しています。その他の外部資金については、獲得額に応じたインセンティブとして5万円を上限として配分しています。また、科研費不採択者でA判定を受けた申請者に対してもインセンティブを付けることとしています。

久枝委員長：わかりました。次の申請で採択されるよう、予算的な支援をされているのですね。

原田委員：テクノネット久留米の活動に関心があるのですが、これはいつ頃から活動されているのですか。

中嶋センター長：平成24年10月からですが、その前にこの前身となる組織があり、それを発展させたものです。

原田委員：非常に良い活動だと思いますので、継続していただきたいと思います。また、この中で共同研究が行われていることが有意義だと考えます。共同研究は開始したり、完了したりしますが、起伏という面では如何ですか。

中寫センター長：テクノネット久留米の会員企業との共同研究件数は、先程、報告がありましたとおり、平成29年度においては4件であり、毎年、同程度で推移しており大きな変化は見られません。今後は、本年度、組織した研究推進部会において増やす方策を検討し、進めていきます。本校全体としても平成29年度の共同研究は14件程であり、それも含めどう増やしていくかが、大きな課題であると考えています。

坂本委員：テクノネット久留米の活動で企業説明会が行われていますが、参加企業数13社、参加学生数57名は、これは多いと考えたら良いのですか。地元就職してもらうことを目的とした取り組みですか。

中寫センター長：企業説明会を実施したのは、平成29年度が2回目であり、今年度に3回目の実施を予定しています。その目的としましては、地元企業を学生に知ってもらうこと、これは教職員も含めてですが、先ずはそれを目的として実施しています。それと13社の参加企業ですが、これは希望を募ったものです。平成28年度は12社に参加いただきました。本年度においては、現在のところ15社の企業が参加を希望されている状況です。会員企業は62社ありますので、今後は参加企業を増やしていく方向で進めていきたいと考えています。参加学生については、平成28年度は29名、平成29年度に57名と約2倍に増加しておりますので、今年度は更に参加学生を増やしたいと考えています。

江崎企画主事：多いか、少ないかの観点ですが、毎年卒業生が約200名いますが、そのうち就職希望は約6割に当たる100名から120名ですので、就職希望者の半数位が参加していることとなりますので、地元企業という観点からすると個人的な意見ではありますが、妥当な人数ではないかと思えます。

平田委員：企業説明会をとおして、実際に就職した学生はおられますか。

越地室長：実際就職した学生はいます。「フェース to フェース」で話すということは、書類とは違う観点からお互いが理解し合えます。これを起点として地元企業への就職も進めたいと考えています。

久枝委員長：概数で構いませんが何名位が地元就職していますか。

越地室長：元々、この学年は進学希望者が多いこともあり、2桁には届きませんが、それに近い人数が就職しています。

久枝委員長：有り難うございました。各委員におかれては、まだご質問がおありのようですが、後は、全体質疑の際にお願いしたいと思います。

(2) 教育の現状と改善について (受験生獲得のために)

久枝委員長：それでは、続きまして、議題2でございますが、「教育の現状と改善について (受験生獲得のために)」辻教務主事から説明をお願いいたします。

(辻教務主事から、資料「教育の現状と改善について」(P39～P52)に基づき説明)

【質疑応答】

久枝委員長：どうも有り難うございました。今の件につきまして、何かご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

富澤委員：多くの中学校を廻られてPRをされているようですが、どういった層を狙っているのでしょうか。つまり高専の魅力をPRするのか、久留米高専の良さなのか、それとも進学先としてなのか、中学生にはまだ将来についての考えが纏まっていないと思いますが、将来、ものづくりに携わりたい中学生にPRされているのですか。なぜかと言いますと、学校説明会の参加者が減っていることは、残念な結果だと感じるからです。そこで、どういった活動をされたのか、また、学生や保護者の反応を聞かせていただきたいと思います。

辻教務主事：当然、高専全体というのも大切だと思いますが、やはり、久留米高専を受験していただきたいのが本音でございます。PRとしましては、理系で技術者になりたいという希望を持っている生徒さんがおられたら学校説明会に足を運んでくださいと案内しています。しかし、学校説明会という名前になると、どうしても受験生が対象となりがちです。そこで、本校は文化祭を行っていますので、そこで、中学1・2年生に対し「高専を知ってくれん会」という催しを行いPRをしています。実際、中学1・2年生の参加も増えてきています。また、中学校の先生と話をしていくと、久留米高専は偏差値が高いので、受験させることを懸念されることもあるみたいですので、中学1・2年生の早い時期からPRし、学生のモチベーションを高めるよう努めています。

久枝委員長：中学1・2年生へのアピールというのは具体的に始めているのでしょうか。それともこれからその方向に舵を切ろうと考えているのでしょうか。

辻教務主事：「高専を知ってくれん会」等の催しの中で、中学1・2年生が高専に関心を持つ取り組みは、積極的に進めて行きたいと考えています。

坂本委員：確かに中学生に対して、高専を知ってもらうことをアピールすることは必要な取り組みですが、技術者になるということからすると、中学校の先生が普通高校に進学し大学へ進む方法、また、高専で学ぶことでの意義を中学校の先生が理解していることが必要であると考えますが、その点はどうか。

辻教務主事：有り難うございます。中学校の先生には理解いただいております、高専向きの生徒さんはおられるみたいで、そういう生徒さんに対しては、積極的に進学を進めてくれる先生もおられますが、坂本委員のご意見のとおり先生に対してのアピールも重要であると考えています。

西田委員：2点質問させていただきます。今の説明にもありましたが、今年度の新たな取り組みとか、現在の取り組みで工夫されていることがあれば教えていただきたいことが1点と、2点目としましては、学校説明会への参加者の減少理由を教えていただきたいと思います。

辻教務主事：現在の取り組みを改善しながら実施しています。また、本校卒業生で中学校の先生と話す機会があり、その先生が言われるには、学校説明会への参加は進めているが、参加した生徒はしょげて帰ってくるそうです。理由は、入学はしたいが偏差値が高く合格することに不安があるそうです。それで、早い時期からアピールする必要性を感じていますので、「高専を知ってくれん会」等の工夫により、高専祭への参加者は以前40名程でしたが、200名近くに増えました。子供の数が増えないのは仕方がないことだと思います。そこで、継続性を持たせるため小学生や中学生1・2年に先ず高専があるということを知ってもらうことが必要であると考えていますので、そういったイベントを企画していくことが必要ではないかと考えています。

平田委員：有意義な工夫をされているようですが、やはり高専の工学分野での説明だけではなく科学等の面白さをアピールした方がよろしいかと思います。体験入学や施設見学を実施されていますが、その際、高専ではこういう勉強が出来るとか、高専の設備にはこういう物があるとか、やはりサイエンスに興味を持ってもらうようなイベントを企画されたら有効であると考えます。高専祭も楽しさをアピールする場ではありますが、サイエンスの楽しさをアピールする場が必要であ

ると思います。

辻教務主事：有り難うございます。ご意見のとおりだと思います。そこは、公開講座や久留米マナビ
ィランドに参加させていただいていますが、小手先だけではなく理工系の楽しさを上手く伝えて
いく必要があると思います。これからも今やっている取り組みを拡大して行きたいと考えていま
す。

中川委員：やはり技術は非常に重要だと考えています。私共の会社は450名の社員がおり、そのう
ち3分の2が技術者です。会社のカラーは九州が地元、久留米からグローバルでございます。会
社で良く言っていることは、技術があればグローバル化ができる。技術の発信者になれば世界に
行けるということです。社員の約10%に当たる約40人を技術開発の専任者としています。地
元としても技術の重要性、技術があれば生き残っていけると考えていますので、高専教育に技術
が持つ根本的な力を注ぎ、学生の力を伸ばしていただきたいと思います。

久枝委員長：有り難うございました。よろしいでしょうか。



(3) 就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて

久枝委員長：それでは、続きまして、議題3でございますが、「就職・進学状況とキャリア支援の取
り組みについて」越地キャリア支援室長から説明をお願いいたします。

(越地キャリア支援室長から、資料「就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて」
(P53～P73)に基づき説明)

【質疑応答】

久枝委員長：どうも有り難うございました。今の件につきまして、何かご意見、ご質問等はございま
せんでしょうか。

坂本委員：高専生は、100%推薦により就職が決まるのでしょうか。本人の希望と企業の希望との
兼ね合いはどうなっているのでしょうか。学生ですので、会社の内容を良く知らない学生もいる
と思いますが、本人の希望がどれだけ反映されているか、また、希望に応じた求人票の検索機能

があるシステムはあるのですか。

越地室長：検索機能を持つシステムはありませんが、エクセルシートにより、各企業に対し基礎情報シートの作成をお願いしており、それを学生が閲覧しています。細かい内容まで記載いただいていますので、有効に機能しています。学生の希望も尊重した上でアドバイスも行っています。今後はAI等も活用し、更に充実させる必要があると考えています。

中島委員：私のイメージでは、九州大学等の難関大学に進学できる高校を望まれる学生さんが多いと感じていました。高専は5年間で技術分野、そして高度なものづくりの知識を修得して社会に出るという理解をしていました。ものづくりの分野においては、出来るだけ早く社会に出てほしいというのが本音ですが、ひとつ全国的に大きな課題となっているのが、事業継承の問題です。学生さんの中で、ものづくりに関わる自営業を承継する必要がある人が何人位おられるのかを教えてくださいたいと思います。

越地室長：そこまでは把握していませんが、面談の中で、例えば、ご両親が車関係の仕事をしておられる関係でその分野に関心を持っている学生や、ご両親が自営業でその影響を受け起業した学生はいます。現在は多様化の時代であり、学生、それぞれが色々な考えを持っています。しかし、多様化の弊害はミスマッチであり、様々な切り口で、ミスマッチがないように丁寧な指導・助言を行っています。

中島委員：私は市役所において採用面接を行う側ですが、凄いキャリアを持った学生さんや民間経験者の採用枠もありますが、ミスマッチングは現実としてございます。それが理由で仕事が長続きしなかった場合、そこにブランクが発生します。そういう人はポテンシャルが高く迷いが深いためブランクの期間が長いと感じています。そうすると結局は、不利な状態でのエントリーになってきます。そこで、一般社会の中での自分の進路を決めて、自分に合う事業体なのか、自分が合わせる必要がある事業体なのか、そこに目を向けていただけたらと思います。

原田委員：今の話と少し関連し、最近、転職率が高いのですが、高専の場合、推薦が多いという説明がありましたので、転職率は低いと感じていますが、その特徴をアピールすることはできないのでしょうか。

越地室長：企業様は、退職率の開示義務がありますが、大学・高専は努力義務で退職者を把握していますのが、その系統的なフォローアップが課題であると認識しています。高専は教員と学生の距離が近いので、直接、電話やメールで会話ができる状況にあります。それを、どうシステムティックに行うかも検討を進める必要があると考えています。

久枝委員長：転職率について、大学との比較は中々難しいと思いますが、高専の方が少ないと思われていますか。

越地室長：裏付けるデータはありませんが少ないと思います。

今泉委員：少し込み入った質問になりますが、推薦ですと就職はかなり有利だと思いますが、それでも中々決まらない学生さんもいると思います。それが何パーセント位かということと、そのことと支援やサポートを要する学生さんと何らかの関連性はあるのでしょうか。

越地室長：特に本校の5年生に関しましては、ほぼ1社で就職が決まってしまう。ただ、やはり普段良く話せる学生でもその場でできないこともありますし、コミュニケーション不足の学生がいることも事実です。そういう学生に対しては、かなり丁寧に繰り返し指導しています。

久枝委員長：議題1でも説明を受けたのですが、インターンシップが今年は増えているということでしたが、今後は増える傾向にあるのでしょうか。それとも推薦なのであまり変わらないのでしょうか。大学の場合は短期インターンシップが増える傾向にあり、早めの就職選考が始まっている感があり、非常に問題になっているところ。高専では如何でしょうか。

越地室長：インターンシップに関しましては、選択科目として単位を認定しています。選択科目なので、参加しない学生もいますが、参加する学生は目的を持って企業を選択していると感じていま

す。

久枝委員長：わかりました。本来のインターンシップの機能を果たしているということですね。

越地室長：そうです。加えて発表会等も行っており、他の企業についての情報も得られます。また、参加した学生は、顔つきが変わり大変良い刺激を受けていると感じています。

久枝委員長：有り難うございました。よろしいでしょうか。



全体質疑

久枝委員長：高専の方で用意していただきました3つの議題についてご説明いただいて、ご意見ご質問を伺いました。今までの課題やそれ以外のものでもよろしいので、ご意見、ご質問がございましたら頂戴したいのですが、如何でしょうか。

西田委員：入り口の視点から意見を述べさせていただきます。私は延べ6年間、久留米市教育委員会で仕事をしていました。その際、久留米高専や久留米工大の先生方には、久留米市における理科教育等について、大変お世話になったという印象が強く残っています。その理由は、保護者や児童・生徒向け、あるいは、理科の先生を対象にした研修等です。そして、昨年度現場に戻り諏訪中学の校長を務めていますが、やはり、現場で見て行くと久留米高専や明善高校というのは、何となく敷居が高いという気がします。ただ、諏訪中学の場合、3年生の当初に保護者や生徒に向けて、各高校に対し説明してもらう機会を設けています。そこで、明善高校の場合は、生徒が目を見せかけて聞きます。4月はまだ入学試験に向けての準備が間に合うと感じているからです。ただ、久留米市の教員から見て明善高校と久留米高専を比較すると、やはり久留米高専の方は距離が遠いという気がします。その理由は、日常的に中高連絡会という中学校と高校の会合がありますし、また、生徒指導連絡協議会ということで、一緒に研修会を行ったりしています。これには久留米附設高校も参加されています。しかしながら、久留米高専とはそういった機会も少なく中学校と久留米高専の間では情報交換の場が少ないように感じます。そのような機会が増えれば、進路指導についても良い影響を与えることになると思います。中学校長会としましても、積極的にそのような環境づくりに協力したいと考えています。先程、入試説明会への参加人数が減

っていることについて、説明いただきましたが、実は、諏訪中学では、説明会が実施された10月13日と11月10日は、諏訪中学では学校行事が催されていました。他のいくつかの学校もこの両日は学校行事を催していると思います。久留米市では2月位に次年度行事を決めますので、中学校長会としても何らかの形で協力し、久留米市におけるものづくり等でお世話になっている久留米高専の力になればと考えています。

中島委員：科学・工学分野に、いかにして関心を持ってもらうということですが、中学生や小学校の高学年位になると関心の方向が見えてくる訳です。子供というのは一番に本を読むかというところではなく機械をいじります。マニュアルなどを見なくても、いじって慣れて行きます。それは男子でも女子でも一緒です。スマホでもそうですが、今は、科学や工学に関わる環境にあります。むしろ小学校の保護者へのPRとか、小学生の高学年のどこかで、科学・工学への意識を芽生えさせ、また気を引くような取り組みが必要だと思えます。私が現場の業務に携わっている頃、学校に重機を持ち込んで生徒にオペレートさせるような教育はどうかと話題にしたことがありました。実際に機械に触れさせる訳です。如何にして児童や生徒が関心を待つような取り組みを行うかが重要であると考えます。

三川校長：今、中島委員から説明があったことは、大変参考になりました。本校では現在、科学技術振興機構（JST）の「ジュニアドクター育成プログラム」の一環として、熊本高専、有明高専とともに「高専ハカセ塾」を開設しています。それは、小学生と中学生を対象とした高度な工学分野の教育でございます。久留米高専では、数学、プロミラミング等の授業を担当しています。また、高専ロボコン大会にも参加させていただきました。このように、小学生や中学生が関心を持つ取り組みは行っています。

久枝委員長：少子化で受験生が減ってきていることとグローバル化に関連してですが、留学生の数は、高専ではどの位が平均なのか解らないのですが、大学と比較すると少ない気がします。留学生数は8名と説明がありましたが、こういった形態で留学しているのか、例えば、交換留学でしょうか。また、大学の方では、少子化や労働力低下を視野に入れ、優秀な人材を留学生として受け入れ、日本において高いレベルの労働力となってもらい取り組みを行っています。そのために海外の高校を訪問し、勧誘しているところですが、高専においては、今申し上げた方向性とは違いませんか。今後、少子化なので入学生が減ってきますが、海外の中学生を勧誘する等、そういった取り組みは検討されていないのでしょうか。

江崎企画主事：質問がございました海外の中学を訪問して勧誘することは行っておりません。ただし、海外からの国費留学生は、東南アジア系から1年あたり3名程度、20年前前から受け入れており、人数に変動はありません。その留学生は本科3年生に入学するシステムとなっています。また、特別聴講生という身分で、海外の大学生を本校に2カ月間の短期留学生として受け入れていますが、中には、4カ月間の短期留学生もいます。これは、先程説明しましたとおり協定を締結している大学から受け入れているものです。受入数としましては、年間で20名近くになります。今、説明した特別聴講生については、日本に残ることが目的ではなく交流することが目的となっています。

久枝委員長：わかりました。学んだ留学生は帰国するんですね。日本で就職するような例はないのですか。

三川校長：日本に残る例はあります。近隣の企業に就職した学生もいます。今年の卒業生も1名残りました。それから補足ですが、現在、タイに高専を設置するというプロジェクトが進んでおり、モンゴルには3校が既に設置されており、タイやベトナムなど、高専の制度を導入したいという国が東南アジアを中心として多いのですが、タイはその中で、チュラポン王女のハイスクールがありまして、そこから中学校を卒業した学生を高専に留学させるというプログラムがあります。本校では受け入れていませんが、全国では、20高専位が受け入れています。それが広まってく

る可能性もございます。それから現在、3年生への留学生の受入れについては、3種類があり、日本国政府が奨学金を給付しているものと、マレーシア及びモンゴルからの政府派遣があります。留学生数としましては、各高専10名前後です。

久枝委員長：大学と違い、低年齢からの入学となるので、日本に馴染むのも早く有効な人材の活用に繋がるものと思いました。次に、専攻科への入学希望者が増えているという説明がありましたが、定員の2倍近くを受け入れているが、かなりの難関ということでした。不合格になった学生さんはどうされているのですか、また、それだけ希望者が多いのであれば、定員を増やすということは考えられていないのですか。

奥山専攻科主事

不合格になった学生についてですが、専攻科の入学試験は年に2回ありまして、6月と10月に実施します。まず、6月にほぼ定員を超える合格者を出します。そこで、不合格になった学生は、就職に希望を変える学生や大学に編入学したいという学生もいますが、勿論、専攻科にもう一度、挑戦したいという学生もいます。それで、10月に不合格になった学生については、編入学試験の時期が遅い大学を受験する学生もいます。就職に変えるという学生もいますが、時期的に就職先が限定されてきますので、難しい面があります。それと、専攻科の入学希望者が増えてきている理由ですが、5年間の一貫教育を受けた上で、研究者になることを希望する学生が増えてきています。本校の専攻科を終了した学生は、更に研究力の向上を図るため、概ね7割が大学院へ進学します。このようなことから、入学希望者が増加していると考えています。

三川校長：久留米高専に赴任して驚いたことの一つに専攻科不合格者の中で、研究生として残り、次年度の入学試験に臨む学生がいるということがあります。また、国立大学に合格しているにも関わらず、10月の専攻科入学試験を受験した学生が数名いました。このように入学希望者が増加したため合格最低点が上がりました。その要因として、専攻科から大学院へのルートが確実に浸透していることと、九州大学大学院総合理工学府との連携協定なども影響しているのではないかと考えています。

中島委員：今年のことですが、久留米市商工観光労働部へ経済産業局から出向いただいている方が、1年間頑張られ久留米市内のものづくり系の中小・零細企業で、国内においてのシェアが高い製品やノウハウを持つ60社を特集し、冊子に纏め上げてあります。年明けにシンポジウムの企画も行われると思いますので、そのご案内をさせていただきたいと思っています。冊子があれば、紹介させていただき、そういった企業に対しても目を向けてもらい、学生さんに対し、地場で働いていただく意欲持ってもらいたいと考えていますので、よろしくお願いします。



講 評

久枝委員長：(講評)

本日はご説明ありがとうございました。

それでは、ご説明をいただいた久留米高専の諸活動につきまして、本委員会を代表いたしまして、若干のご意見などを述べさせていただきたいと思えます。今回は、三議題についてご説明をいただきました、最初の議題に関しては、「前年度の指摘事項について」ということでございました。

久留米高専におかれては、PDCAサイクルを廻されており、毎年、この外部評価委員会を開催し、また、5年毎のJABEE、7年毎の機関別認証評価及び7年毎の教育実施状況審査をとおして様々な問題点や課題を抽出されて、それに対し、非常に細かく対応されているということは、非常に感心いたしました。しかし、この委員会の中でもご意見がありましたとおり、課題数が多すぎると思えますので、もう少し絞り込みその中身を深堀してもらいたいという意見が全体打合せの中でありました。

具体的にどういうことかと申しますと、課題数を示してもらうのは良いが、課題数の増減理由、どれだけの課題数を目標にしているのが明確になると良くなるのではないかとすることを指摘事項とさせていただきます。

次に二番目の議題でございました「教育の現状と改善について(受験生獲得のために)」に関してでございますが、学校説明会などを開催され、受験生の獲得に努力と工夫をされていると感じました。

単なる説明会ではなく、高専祭の時に「高専を知ってくれん会」の開催や「高専ハカセ塾」の取り組みは非常に評価できると思えます。しかしながら、それだけ努力し、工夫されているにも関わらず説明会への参加者が減っているということは、その理由として、委員会での意見としても出てきましたが、地元の中学校行事と重なっているとか、十分に減少した理由を調査した上で、出来るだけ多くの人に参加してもらえるような工夫が必要ではないかと考えます。それに加え小学校・中学校の生徒・保護者に対し、サイエンス及びテクノロジーに関する理解を深めることが必要であると感じました。努力をされていることは理解していますが、単独ではなく他の高専との連携した取り組みも今後、重要になると思えます。高専の先生の中には、私が会長を務める九州工学教育協会の会員もおられると思えますが、小学校、中学校及び高校も含めて工学を理解していただく取り組みを行っていますので、引き続きご協力いただければと思っています。

次に三番目の議題でございました「就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて」でございますが、非常に手厚くサポートをされて就職に関し努力されていることは十分に理解できました。非常に進学や就職状況が良いということですが、現在は、求人状況が良いのですが、今後の状況はわからない面もありますので、もう少し危機感も持った方が良いのではないかと意見もありました。また、就職に関して、地域性について今回分析いただいた訳ですが、九州地方への就職は約3割に当たる32%ということですが、この数値について委員の方からの意見としましては、もう少し地元重視、地域重視があっても良いのではないかとことでした。勿論、これは、学生さんの希望ということもありますが、推薦中心ということですので、先生方がどういった情報の与え方を行われているかということがかなり影響していると思えますので、高専としての存在意義ということと関連して、ご検討いただければと思います。それと、全体質疑の中で出てきましたが、少子化で学生数が減っていますので、留学生を如何に取り込むかということが重要であると考えます。

高専の役割ではないかもしれませんが、必然的に子供が減っているのは間違いないので、海外の優秀な留学生に低学年のうちから日本に馴染んでもらい、日本で働いてもらう学生を育てるということも考えていくべきではないかと思えます。また、女性に関しては、本日の会議ではあまりできてませ

んでしたが、高専全体での女子学生の比率は20%と聞いています。大学の工学部と比較すると随分高いのですが、もっと増やせるのではないかと、その努力をした方が良いのではないかと思います。女性の場合、地元志向の傾向が強い面がありますので、地元で優秀な学生が残ってくれるのではないかと意見もございました。是非、そういったこともお考えいただいたら良いかと思います。全体として高専の良さをアピールしていただきましたが、非常に良いにもかかわらず、志願者が思ったより増えていない一因は、高専について中学校の先生がご存知ないということが挙げられるかと思っておりますので、さらに高専の良さをアピールする努力、特に中学校の先生へのアピールが重要ではないかと思っております。

また、高専の先生方は、大学と比べ小人数で頑張っておられると思います。本日は、説明いただく時間がなかったのですが、事務職員の方もおられると思います。本日は教員と技術職員のご努力は理解できましたが、事務職員と協働で何かやっていくことも必要かと思っておりますので、今後、教員と事務職員の間でどういう形で協働されているかということもご報告いただければ有り難いと思っております。

以上が外部評価委員会を代表しての講評とさせていただきます。

閉会挨拶

三川校長：本日は、外部評価委員の皆様におかれては、お忙しいところ貴重なお時間をいただきまして、感謝この上もないところでございます。本当にありがとうございました。また、委員長をお努めいただいた久枝先生におかれましては、円滑な議事進行と貴重なご意見を取り纏めいただき厚く御礼申し上げます。本日は、私もメモを取らせていただきましたが、非常に多岐にわたって有用なご指摘とご提言を賜り、誠にありがたく思っている次第でございます。いただいたご指摘やご提言につきましては、教職員が一丸となって取り組まさせていただきます、改善を図りまして、来年度は、さらに良いご報告が出来ますよう努力したいと思っている次第でございます。また、委員の方から、「サイエンス」、「エンジニアリング」の魅力を中学生にアピールしてほしい、技術があれば、企業にも貢献いただけるというご意見を賜り、そこに肝を据えて私どもの学校運営と教育・研究を進めていくことの重要性を改めて認識した次第でございます。外部評価委員会委員の皆様におかれましては、引き続き、久留米高専の運営にご指導とご助言を賜りますようお願い申し上げます、閉会の挨拶とさせていただきます。本日は年末のお忙しい中お越しいただき、大変ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。



外部評価の結果

1. 評価点

【報告事項】

- (1) 前年度の指摘事項について
- (2) 教育の現状と改善について
- (3) 就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて

	報告事項	A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員	H 委員	I 委員
評価	総合	4	5	5	5	5	4	5	4	4
	(1)	4	5	5	5	5	4	5	5	4
	(2)	4	5	4	4	5	4	4	4	4
	(3)	5	5	5	5	5	4	5	4	4

評価点	評価基準
5	優れている、または、適切である。
4	やや優れている、または、ほぼ適切といえる。
3	普通。
2	やや劣っている、または、あまり適切といえない。
1	劣っている、または、適切でない。

2. 意見・提言

A委員

(1) 前年度の指摘事項について

- ・毎年の外部評価、5年毎のJ A B E E、7年毎の認証評価と教育実施状況審査を確実にを行い、P D C Aサイクルを実施していることは評価できる。課題抽出が多すぎるのでプライオリティーを付けて、重要課題について深掘りすることが望ましい。数値目標を設定すると目指すところが分かりやすいのではないか。

(2) 教育の現状と改善について

- ・説明会、高専祭（高専を知ってくれん会）などでアピールして受験生獲得の努力をしていることは評価できる。説明会を設定する際は、中学の行事を調べるなど参加者の都合を配慮する必要がある。他の団体と連携も含めて、高専の良さ、工学の面白さをアピールしてほしい。少子化を念頭に、留学生獲得も視野に入れた方が良いのではないか。

(3) 就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて

- ・サポートが手厚く、手をかけて支援している努力がうかがえる。今後も良い状況が続くとは限らないので、常に危機感をもっておくべきである。就職に関しては、高専の特徴として地元を大切にした方策が望まれる。

B委員

- ・テクノネット久留米関係の地元と連携した活動（施設見学、企業説明会、共同研究）は、魅力的である。
- ・我田引水的コメントで恐縮だが、学生教育に役立つ形で近隣大学・大学院と連携した共同研究を増やすことも、魅力的である。それが、地域連携に繋がり、高専がH u b 的役割を果たすようであれば、更に魅力は増すであろう。
- ・学校の諸行事を行う上で、特に地元の行事を把握した上での日程調整に、十分御注意いただきたい。
- ・就学年齢人口減少に伴う学生数の減少は致し方ないので、入試倍率が下がるのも致し方ないところではあるが、その中で制御情報工学科が検討している点に時代の要請を見る。女性が活躍できる工学が開拓でき、アピールできる（私見、この可能性は重厚長大技術から軽薄短小技術、さらに情報技術への移行で高まっている）と学生数の減少を補って余りあるかもしれない。このためには、小学校高学年から中学二年までに、キャリアパスの具体例を示しつつ工学の魅力を、特に保護者向けに、アピールする機会を増やすくらいしかアイデアは浮かばない。
- ・地元の業者が人手不足を憂いている一方で、外国人の日本国内での就職可能性が高まっている。この点において、高専が、より大きく貢献できることがあるかを検討する余地があると推察される。
- ・キャリア支援は十分な取り組みが行われている。可能な範囲で、修了生の転職動向等が把握できると参考になるであろう。
- ・キャリア支援関係でオーバーワークの話があったと記憶しているが、無理なく継続的に実施できる体制の整備が重要である。

C委員

- ・（教育の現状と改善について）久留米高専全体の入試倍率の年次的減少は顕著である。受験生増加に関わる各学科による様々な努力があったことは承知している。その上で、少子化は着実に進

んでいることから、5学科の体制そのものがこれからの多様性や不確実さを要求される時代にマッチしているか否かを検証し、必要であれば体制を変革することも求められるのではないのでしょうか。

- ・(就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて) 就職・進学やキャリア支援は、主として教員が担当しているように判断します。組織は、教員79人、職員45人であり、教職協働の取り組みがあってもよいのではないのでしょうか。

D委員

(1) 全年度の指摘事項について

- ・活動目標に対してPDCAサイクルを年に2回取り組んでいることはいかにも大変ではあるが、現状を正確に認識する良い機会となっていると考えられます。教員の負担が少ないように望みます。また、テクノネットの活用の指摘に対して地元企業による就職説明会や企業紹介等、地道な活動を進めており、極めて大事な事だと考えます。

(2) 教育の現状と改善について

- ・高専を知ってもらうことが今後増々重要となると考えます。生徒や親だけではなく、特に中学校の教師に対して理解していただく事が重要だと考えます。ここでは、高校や大学との組織上の違いだけではなく、技術や科学に対する高専の独自性を強くアピールしていくことが大切だと感じました。

(3) 就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて

- ・進学に対して教員による指導より学生の自主性を尊重する運営がなされていることに感銘を受けました。このことは、一般高校生や大学生に比べても社会人としての平均的素養が高く、結果として就職後の離職率の低さに繋がっているように感じました。地元就職率を高めることや女性比率を上げる努力を引続き希望します。

E委員

(1) 全年度の指摘事項について

- ・学校スタッフ一丸となって適切に取り組まれている。

(2) 教育の現状と改善について

- ・1日体験入学の取組みにおいて、事前説明の内容や頻度、女子生徒の増対策において、一層の工夫が必要と思われる。

(3) 就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて

- ・高いレベルの支援体制が構築されていると感じられた。また、我が国の人口減少の潮流、出入国管理法改正、我が国の持続的な成長など、中長期的視点からの外国人労働者(研究者)の受け入れ、育成も視野に、久留米高専の運営の在り方も考えられている。

(意見) 久留米市内や久留米圏域においても優良で魅力的なものづくり企業が存在しているので、地場での就職にも力を入れていただき、地場企業のさらなる成長と久留米地域の産業の活性化につなげていただきたい。

F委員

- ・英語コミュニケーション力向上や留学、留学生受入れ等、グローバル適応力UPに関する説明がほとんどなかった。グローバル化に対応できる人材の育成につながる教育プログラムを積極的に強化すべきと考える。

- ・入試倍率は近年では微増しているものの長期的には低下したままである。いくら器が立派でも、入り口で良い人材が確保できないと仕上がりもおのずと限界がある。良い人材確保のために、高

- 専の教育の特徴、魅力のPRや大学編入実績向上に向けた取り組みに更に力を入れるべきである。
- ・また多くの学科で半数以上が進学希望となっていることに対して、従来型の高専の魅力PRでよいのか、進学を念頭においた教育カリキュラムとするのか、進学に力点を置くなら「高校⇒大学」ではなく「高専⇒大学／高等専攻科」と進むプロセスのメリットは何か等、議論すべきことは多いと思う。
 - ・求人数の増加は全国的な人手不足によるものであり、OBの活躍や進路支援サポートの結果だけではない。中学校教師に対する高専の教育カリキュラムの理解向上や久留米高専の特徴の浸透活動を継続していきことが重要である。

G委員

(1) 前年度の指摘事項について

- ・指摘された多くの課題を見える化し、日常の業務と上手くバランスを取りながら、地道に継続遂行されている点を高く評価します。テクノネット久留米の活動や大学・大学院との連携も拡大しており、適切にPDCAサイクルの運営がなされているとします。

(2) 教育の現状と改善について

- ・志願倍率が右肩下がりの現状には残念でした。企業としては、各地域での技術者の継続的な育成が、地域の活性化から地方創生へ続くための不可欠な基盤と捉えています。各地域の工業高等専門学校がこの任に当たられ、企業は大きく期待しています。少子化でより困難な状況でしょうが、高専の教育は産業を活性化する未来の技術者を増やす仕事と自身を持って、日々の活動を充実させてください。

(3) 就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて

- ・就職及び進学ともに十分な内容で、高い質の教育とキャリア支援ができていると評価します。九州地域への就職者が三割あり、地方産業界への人材供給もできています。要望とすれば、現在、企業は女性活躍推進活動に力をいれています。女性技術者の育成とキャリア支援を更に広げていただければ、企業との連携もより充実していくと思います。

H委員

(1) 前年度の指摘事項について

- ・しっかりと「PDCAサイクル」で、学校全体の取り組みを推進しておられる。外部評価委員会での指摘事項も、細かく分類し改善策を講じられています。その仕組みは実働的であり、各改善策も高く評価できます。

(2) 教育の現状と改善について

- ・入試広報については、「1日体験入学」「中学校訪問」「学校説明会」「入学説明懇談会」「中学校の進路学習会等への教員・学生派遣」等、種類も豊富で様々な工夫をされています。特に、新たに「高専を知ってくれん会」を実施され、その際、中学校のキャリア教育の現状とあわせて、中学1、2年生をも対象として企画されるなどの新たな取組は高く評価できます。今後は、久留米高専の魅力を、中学校現場を通して、あるいは直接児童生徒・保護者に伝えることができるような工夫がさらにあると、各種学校説明会等への参加人数、入学志願者等も増加できるのではないかと思います。

(3) 就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて

- ・昨年度設立された「キャリア支援室」が、学生の就職、進学等の進路全体をサポートされているのは大変意義深いと思います。特に、低学年を含む高専生活全体を通してのサポートは、学生の高専でのキャリア支援に効果的な取り組みになっていると感じました。また、具体的な就職指導についても、きめ細かい取り組みを実施されており、学生にとって手厚いサポートになっている

と感じます。このような取り組み、特に「高専に入学してからの就職。進学等の情報」が、入学前の早い段階で中学生、保護者、中学校教員にさらに広報されると、「高専への入り口」と「高専からの出口」が有機的に結びついてもっと効果が上がるのではないかと感じられます。

I 委員

(1) 前年度の指摘事項について

- ・全体として指摘事項に対して良く改善されていると考える。組織運営におけるPDCAサイクルの重点化と主な取り組み事例の紹介があればよかった。

(2) 教育の現状と改善について

- ・実践的な技術者の教育機関として評価の高い高専であるが、少子化の影響で今後、受験生の確保が困難になると考えられるので中学生に対する科学、工学への興味をより強く感じさせる取り組みが必要。

(3) 就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて

- ・高専のメリットある内定率の高さ、早く就活が終わる、また進学率の高さも魅力となるので広報の武器にして欲しい。

説明資料

前年度の指摘事項について

副校長／企画主事 江 崎 昇 二



資料1

昨年度 外部評価委員会での指摘事項

分類	内容概略
A	継続実施
B	責任と業務量に相当する処遇方法検討
C	教員間の意思疎通を図る仕組みづくり
D	専門外の知識や教養を身につけるカリキュラムの説明
E	就職先の分類に、業種だけでなく地域を入れる
F	科研費の全員申請などによる研究力強化
G	Web上へのタイムリーな入試案内や高専紹介情報公開
H	共同研究の充実および公開
I	KPIなどのフィードバック方法の検討
J	コンプライアンス、安全、グローバル人材育成教育の検討
K	在校生・OB・教育界・産業界・地域社会等のニーズ調査
L	中学生および中学校教員に対する情報提供方法検討
M	特別教育支援に関する教職員研修の導入検討
N	テクノネット久留米のアウトプットのあり方の検討

本年度 自己点検評価書 外部評価委員会関連抜粋

14	外	1	(1)	③	中学校教員への本校紹介方法検討(H29外部評価委員会)
26	外	1	(1)	⑤	Web上へのタイムリーな入試案内や高専紹介情報公開(H29外部評価委員会)
42	外	1	(2)	②	情報セキュリティ科目の全学科導入検討(H28外部評価委員会)
49	外	1	(2)	③	学生の授業評価アンケート項目の見直し検討(H25外部評価委員会)
69	外	1	(3)	②	大学とのクロスポイントメント制度導入検討(H28外部評価委員会)
96	外	1	(4)	②	JABEE継続・非継続の検討(H28外部評価委員会)
108	外	1	(4)	⑤	大学、大学院との連携強化の方策検討
122	外	1	(4)	⑨	学科横断科目の導入検討(H28外部評価委員会)
121	外	1	(4)	⑨	教員間の意思疎通を図る仕組みづくり(H29外部評価委員会)
124	外	1	(4)	⑩	英語力の達成目標の導入検討
125	外	1	(4)	⑩	留年・休学・退学者の減少対策検討(H28外部評価委員会)
140	外	1	(5)	①	カウンセリングの実施状況の把握および分析
141	外	1	(5)	①	人権意識の確立やDV防止教育の実施
143	外	1	(5)	①	特別支援教育の視点を反映した教育の実施(H28外部評価委員会)
144	外	1	(5)	①	特別支援教育に関する教職員研修の実施検討(H29外部評価委員会)
158	外	1	(5)	④	業種別に加えた地域別就職先の分類調査方法の検討(H29外部評価委員会)
215	外	1	(6)	③	教職員のワーク・ライフバランスの点検及び適正化(H28外部評価委員会第1回運営委員会)
239	外	1		⑦	本科・専攻科進路の県内・県外割合把握、公開(H25外部評価委員会)
242	外	2		①	科研費申請数向上対策実施(H29外部評価委員会)
251	外	2		②	共同研究・受託研究の公開(H29外部評価委員会)
262	外	2		②	「テクノネット久留米」(技術振興会)のアウトプットのあり方の検討(H29外部評価委員会)
276	外	2		④	地域の産業界に対するニーズ調査方法検討
298	外	4		①	KPIなどの管理方法導入の検討
318	外	4		③	機構本部作成コンプライアンス・マニュアル等を活用した教職員コンプライアンス向上
341	外	4		⑩	外部評価委員会の開催および審議内容の検討
350	外	4			責任と業務量に相当する教員の処遇方法検討(H29外部評価委員会)

議題(1)

議題(2)

議題(3)

テクノネット久留米(H24年10月発足)

目的

- 久留米高専と地域産業界等との連携・交流を深め地域産業の発展に寄与する
- 久留米高専の教育研究の振興を図る

会員(平成30年9月現在)〔計78〕

法人会員:地域企業 62社

個人会員:2名

特別会員:九州シンクロトン光研究センター、
佐賀県地域産業支援センター、
産業技術総合研究所九州センター、
福岡県工業技術センター-生物食品研究所、
西日本新聞久留米総局
久留米・鳥栖・筑後・八女商工会議所、
久留米市、鳥栖市、
久留米大学、久留米工業大学 等

【年会費】

法人会員 一口 15,000円
個人会員 一口 5,000円

役職	氏名	所属企業等	役職	氏名	所属企業等
会長	石丸 茂夫	日米ゴム株式会社 代表取締役社長	理事	林 喜一郎	林保冷工業株式会社 代表取締役社長
副会長	小川 朗	株式会社小川製作所 代表取締役社長	理事	平田 敬一郎	株式会社久留米リサーチ・パーク 常務取締役
副会長	富澤 章	株式会社ブリヂストン 九州生産本部総務部長	理事	宮崎 博久	株式会社九州エルピー 取締役会長
理事	穴見 英三	久留米商工会議所 専務理事	監査役	鶴木 賢	久留米市 商工観光労働部長
理事	古賀 俊宏	株式会社古賀歯車製作所 代表取締役社長	監査役	松雪 努	鳥栖市 産業経済部長
理事	古賀 久登	鳥栖商工会議所 専務理事	幹事	中嶋 裕之	久留米工業高等専門学校 産学民連携テクノセンター長
理事	武井 邦雄	武井電機工業株式会社 代表取締役社長	顧問	金子 末見	筑邦銀行 上席執行役員 本店営業部長
理事	津福 一宏	津福工業株式会社 代表取締役社長	顧問	三川 譲二	久留米工業高等専門学校長
理事	中西 昌人	西日本新聞社 久留米総局長			

テクノネット久留米の活動

テクノネット久留米企業説明会

○平成30年3月5日(月)13:00～16:30

○久留米高専 産学民連携テクノセンター

○参加企業数:13社

○参加学生数:57名

- ・学生に対する地元企業の情報提供
- ・プレゼンテーションおよびブース展示



テクノネット久留米 講演会

○平成30年6月22日(金)

○久留米高専 D4教室

○参加者数:117名

○演題

- ・「品質トラブルを回避し、イノベーションを生む設計方法に変えるには」

戸水 晴夫氏(SDI-Japan代表)



テクノネット久留米 ラボツアー

○平成28年3月25日(金)13:30~16:30

○久留米高専 各専門学科研究室及びものづくりセンター

○参加者数:13名

○施設見学

(1)機械・電機システム工学実験室

(2)高分子第2実験室

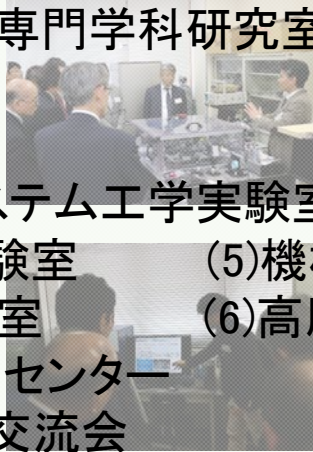
(3)画像処理実験室

(4)ものづくり教育センター

(5)機械要素設計実験室

(6)高圧機器分析室

○意見交換・技術交流会



テクノネット久留米 会員企業等の施設見学

○平成28年8月31日(水)14:00~16:00

○株式会社ブリヂストン久留米工場

○参加者数:46名

○施設見学

(1)第1工場(押出・才断・成型工程)

(2)加硫工程

(3)ロビー展示・社長室

○質疑応答



テクノネット久留米会員紹介ブック2018作成

○平成30年5月発行

○発行部数:700部

○配布先:テクノネット久留米会員

久留米高専在学学生(4,5年、専攻科1年)

久留米高専同窓会記念館及び同窓会各支部

- ・Uターン希望の卒業生への情報提供
- ・新規会員の勧誘及び企業PRの一助



テクノネット久留米図書寄贈事業 「テクノネット久留米文庫」

○寄贈日:平成30年7月2日(月)

○場所:久留米高専 図書館

○冊数:31冊

- ・久留米高専の教育研究活動支援・充実
- ・昨年から継続、学生が希望した小説及び専門書、郷土に関する書籍等計68冊を配架



テクノネット久留米会員と久留米高専の共同研究

NO	研究題目	会員企業	久留米高専研究者	学科
1	新規導電性包埋剤の開発	久留米大学	松田 貴暁	生化
2	ラックの熱処理ひずみ矯正および低減に関する研究と研究開発に関わる調査	(株)古賀歯車製作所	青野 雄太	機械
3	定量充填機のバルブ部の摺動部材レス技術の開発	(株)久留米リサーチ・パーク株式会社西田	渡邊 悠太	機械
4	複合窒化物圧電薄膜のX線光電子分光法による構造解析	国立研究開発法人産業技術総合研究所	奥山 哲也	材料

大学・大学院との連携

連携項目

- 推薦入試
- 講義, 共同研究, 共同教育
- 教育・研究等の情報交換や交流
- インターンシップ
- 研究施設利用
- その他の連携・協力 等

大学・大学院との連携

九州大学とのカリキュラム連携(受講者数)

	H26	H27	H28	H29	H30
インターシップ	8	5	2	3	18
特別講義(延数)	109	139	108	131	167



特別講義(先端工学特論)

大学院進学者数の推移

大学院名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
九州	9	10	5	9	5	15	10	13	11	11
九州工業	0	0	1	1	3	1	0	0	0	0
東京	0	0	1	1	1	0	0	1	2	0
東京工業	0	3	2	1	4	1	2	0	5	1
大阪	0	0	0	0	0	0	2	2	1	4
早稲田	0	1	0	0	3	0	0	2	1	2



専攻科インターシップ

大学・大学院との連携

協定・覚書(H29年度以降)

- ・ キングモンクット工科大学カバン校(タイ)
- ・ 久留米工業大学
- ・ 九州大学 総合理工学府・研究所
工学部(*九州沖縄地区9高専)
- ・ マレーシア工科大学

H29年 3月 31日
H29年 6月 1日
H30年 1月 11日
H30年度内 締結予定
H31年度へ向け協議中

協定・覚書(上記以外)

- [4大学1高専 単位互換]
久留米大, 久留米工大,
聖マリア学院大,
久留米信愛女学院短期大
- [推薦入試]
早稲田大, 北陸先端大

- [中国] 合肥学院大, 厦門理工大
[韓国] 啓明大
[カナダ] レッドリバー・コミュニティカレッジ
[シンガポール] テマセク・ポリテク, リパブリックポリテク,
シンガポール・ポリテク, ナンヤン・ポリテク
[タイ] キングモンクット工科大, カセサート大
[マレーシア] ペトラス工科大
[インドネシア] ガジャマダ大
[ベトナム] ハノイ大, タン大
[モンゴル] モンゴル科技大

研究力(科研費、共同研究等)の強化

○ 高専機構目標

- 総予算規模の10%
- 各ブロックで3年間で現状の1.3倍
- 国立高専リサーチアドミニストレータ(KRA)の導入

○ 九州沖縄地区(第5ブロック)高専の取組み

- 校務見直しと学修単位導入によるリサーチアワーの確保
- インセンティブ制度による研究意欲向上
- 採択申請書の学内公開制度や採択経験者助言による申請書作成
- 外部資金獲得額の見える化
- 研究業績(5年間2報の査読付論文投稿)目標設定

○ 久留米高専の取組み

- 科研費申請、外部資金、科研不採択者へのインセンティブ制度の導入
- 会議曜日や時間固定化によるリサーチアワーの確保
- 研究推進作業部会の組織化による研究力向上策の検討

説明資料

教育の現状と改善について

副校長／教務主事 辻 豊

教育の現状と改善について

～受検生獲得のために～

教務主事

辻 豊

内容

1. 学校の概況

高専制度・教職員数・学生数

2. 入り口

1) 入試倍率の推移

2) 入試広報について

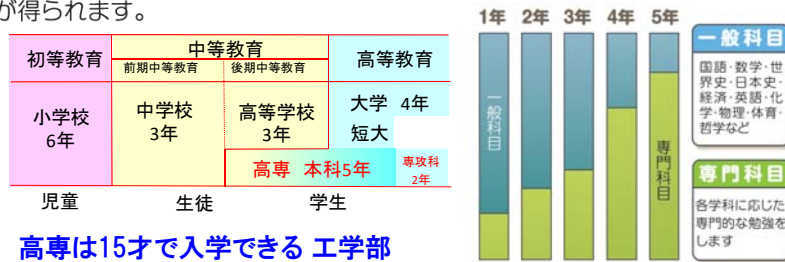
高専では技術者になるための「専門の技術・知識」を学ぶ!

高校(3年)+大学(4年)=高専(5年)を目指しています!

KOSEN NAVI

- 1~3年生から、大学と同じような専門科目を学びます。
- いわゆる“受験勉強”がないので、効率的な学習ができます。
- 実験・実習・卒業研究などの時間は大学の約2倍もあります。

1年生から専門教育を少しずつ増やしていく「くさび型教育」方法。これによって一般科目と専門科目をバランスよく学び、4年制大学とほぼ同レベルの専門知識が得られます。



高専は15才で入学できる 工学部

学術とものづくり とを巧みに結びつける優れたセンスと、そこから生まれるアイデア(発想)を実践する力に裏打ちされた 技術者魂→
高専スピリッツ(小畑 高専機構理事長)

3

久留米高専の歴史

学校要覧 P.5

- 1939 久留米高等工業学校設立 (修業年限3年・高等教育機関)
 - 1949 九州大学に包括(九州大学久留米工業専門学校)
校内に九州大学教養部第二分校 開設
 - 1951 九州大学久留米工業専門学校 閉校(卒業生2,654名)
 - 1958 久留米工業短期大学設立(修業年限2年)
 - 1961 同 附属工業高校設立 (修業年限3年)
- (1961.10 高等専門学校制度 1962.4 国立高専12校 開校)
- 1964 久留米工業高等専門学校 開校 (修業年限5年)
 - 1966 第1回卒業式挙行(全国で初めて高専卒業生を輩出)
 - 1993 専攻科設置 (修業年限2年)
 - 2014 久留米高専創基75周年・創立50周年

高専のモデル

卒業生・修了生 約13,000人

(安部龍太郎(直木賞作家)・乙一(作家)も本校の卒業生です!)

4

教育理念

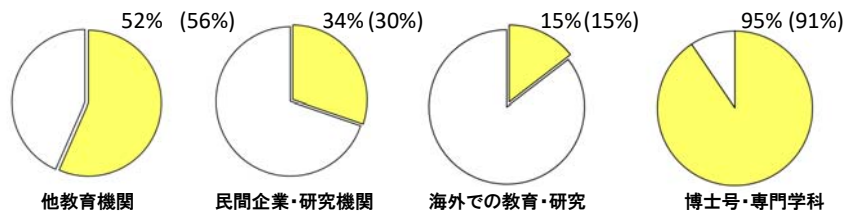
自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成



「自ら考え」、「自ら行動できる」
学生の育成！

教員・職員

教員の経歴・学位



	教育職員					
	校長	教授	准教授	講師	助教	計
定員	1	36	35	0	7	79
現員	1	32(2)	29(3)	2	7(2)[1]	71(7)[1]
一般文科		4(2)	6(1)			10(3)
一般理科 ¹⁾		5	7(1)	1		12(1)
機械		6	4		1	11
電気電子		5	3(1)	1		9(1)
制御情報		4	2	1	2[1]	9[1]
生物応用化学 ¹⁾		4	4		1(1)	9(1)
材料システム		4	3		3(1)	10(1)

技術職員	事務職員	合計
45		124
16	28	115

高専の設置基準（5学科）
一般教員：22名
専門教員：36名

今年度は人事交流で4名の先生が他高専に勤務しています。

()は女性・内数 []は再雇用フルタイム教員・内数。
1)人事交流(同居支援)による転出4名は含まない。

同居支援制度:介護等のライフイベントが生じ、配偶者等と同居等が必要になった教員を対象とする交流制度(1年から5年)

在校生数(本科)

2018年4月(女子)

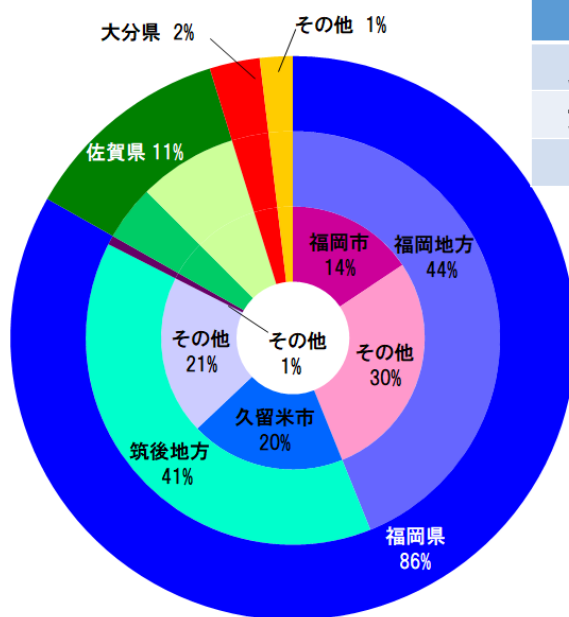
学 科	入学 定員	総定員	現 員					計
			1年	2年	3年	4年	5年	
機械工学科	40	200	43 (5)	47 (5)	40 (5)	44 (3)	39 (0)	213 (13)
電気電子工学科	40	200	44 (3)	46 (2)	42 (4)	38 (3)	39 (3)	209 (17)
制御情報工学科	40	200	43 (7)	46 (7)	41 (8)	40 (7)	38 (6)	208 (35)
生物応用化学科	40	200	44 (17)	43 (20)	48 (18)	36 (11)	41 (22)	212 (97)
材料工学科 ¹⁾	40	200	43 (19)	42 (8)	44 (13)	42 (13)	39 (9)	210 (57)
計	200	1000	217 (51)	224 (42)	215 (48)	200 (37)	196 (40)	1052 (217)

1) 1、2年生は材料システム工学科

在校生数 (専攻科)

専 攻	入学 定員	総定員	現 員		計
			1年	2年	
機械・電気システム工学専攻	12	24	28 (3)	18 (1)	46 (1)
物質工学専攻	8	16	11 (1)	16 (4)	27 (8)
計	20	40	39 (4)	34 (5)	73 (9)

学生の出身地



学生寮(4/1現在)

	定員	入寮者
男子	210名	142名
女子	30名	30名
計	240名	172名

留学生

国	人数
マレーシア	3
インドネシア	2
モンゴル	2
ガボン	1
計	8

内容

1. 学校の概況

高専制度・教職員数・学生数

2. 入り口

1) 入試倍率の推移

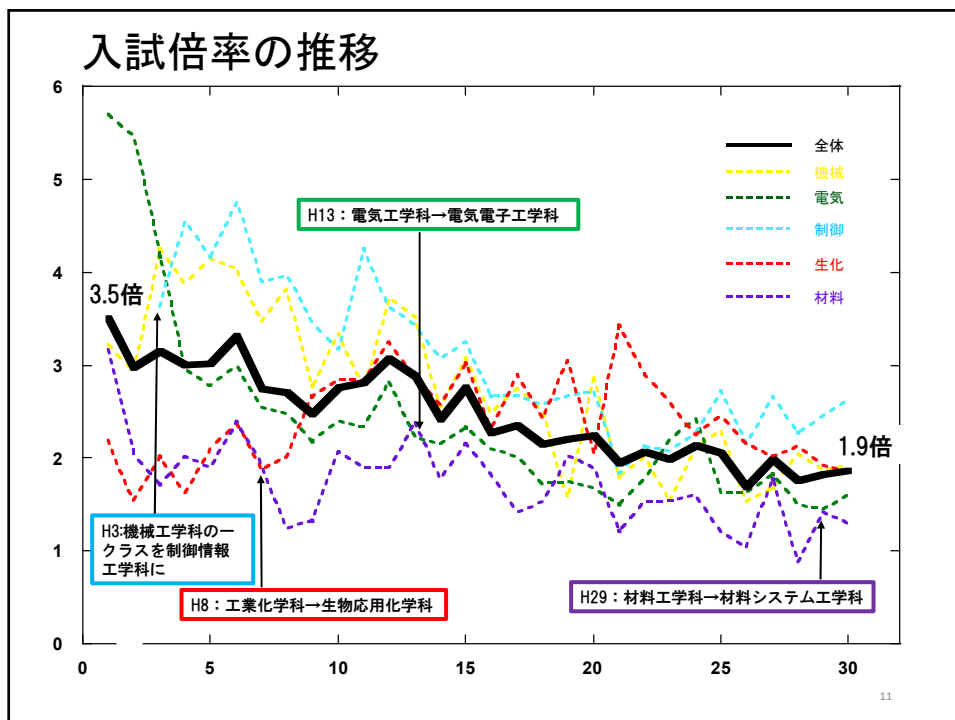
2) 入試広報について

9

入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)

- ① 技術者になる意欲を持っている人
- ② 理数系の基礎学力が身についている人
- ③ 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- ④ 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

10



入試広報について

6月：「中学校宛資料送付」から入試広報が始まります。
 (1日体験入学の案内・パンフレット等。中学3年生32,873名)

入試広報の種類

- ・1日体験入学
 - 学科の特徴を知ってもらう
- ・中学校訪問
 - 1日体験入学のお礼と学校説明会の広報活動
- ・学校説明会
 - 学校の紹介
- ・入試説明懇談会
 - 中学校進路担当教諭に募集要項の説明
- ・中学校に教員・学生派遣
 - 進路学習会等での説明

一日体験入学:五学科の特徴を知ってもらうために

(8月21日(火)・22日(水)実施 参加者:560名

(△=+9人; Δ=平成30年度参加者-平成29年度参加者)

時間 グループ	9:00 ~9:40	10:00 ~10:40	10:55 ~11:35	11:35 ~12:20	12:30 ~13:10	13:25 ~14:05	14:20 ~15:00	15:15 ~15:55
A	開校式 学校説明	生化Ⅰ	電気Ⅰ	昼食	制御Ⅰ	材料Ⅰ	機械Ⅰ	交流Ⅰ
B		生化Ⅱ	電気Ⅱ		制御Ⅱ	材料Ⅱ	機械Ⅱ	交流Ⅱ
C		交流Ⅰ	生化Ⅰ		電気Ⅰ	制御Ⅰ	材料Ⅰ	機械Ⅰ
D		交流Ⅱ	生化Ⅱ		電気Ⅱ	制御Ⅱ	材料Ⅱ	機械Ⅱ
E		機械Ⅰ	交流Ⅰ	生化Ⅰ	電気Ⅰ	制御Ⅰ	材料Ⅰ	
F		機械Ⅱ	交流Ⅱ	生化Ⅱ	電気Ⅱ	制御Ⅱ	材料Ⅱ	
G		材料Ⅰ	機械Ⅰ	交流Ⅰ	昼食	生化Ⅰ	電気Ⅰ	制御Ⅰ
H		材料Ⅱ	機械Ⅱ	交流Ⅱ		生化Ⅱ	電気Ⅱ	制御Ⅱ
I		制御Ⅰ	材料Ⅰ	機械Ⅰ		交流Ⅰ	生化Ⅰ	電気Ⅰ
J		制御Ⅱ	材料Ⅱ	機械Ⅱ		交流Ⅱ	生化Ⅱ	電気Ⅱ
K		電気Ⅰ	制御Ⅰ	材料Ⅰ	機械Ⅰ	交流Ⅰ	生化Ⅰ	
L		電気Ⅱ	制御Ⅱ	材料Ⅱ	機械Ⅱ	交流Ⅱ	生化Ⅱ	

25名程度のグループに分け全学科の特色に合わせた講義・実験を体験。

交流:在校生との歓談。(好評です。)

長所:5学科を体験することができる。

短所:人数制限(600人程度が限界)がある。実施できる日にちが限定。

13

中学校訪問:学校説明会のアナウンス(8月~9月)

34名の教員で分担し、1回 4~7校訪問します。

市・郡	校数	市・郡	校数	市・郡	校数	市・郡	校数
福岡市	50	糸島市	6	うきは市	2	佐賀市	14
春日市	6	筑紫郡	3	大川市	4	鳥栖市	4
大野城市	5	古賀・福津市	5	柳川市	6	小城市	2
朝倉市・郡	9	久留米市	22	みやま市	2	武雄・多久市、 杵島市	3
糟屋郡	10	小郡市	5	三井郡	1	三養基郡	5
太宰府市	4	八女市・郡	10	三潞郡	1	神崎市・郡	5
筑紫野市	5	筑後市	3	飯塚・嘉麻市	4	日田市	5

福岡地区

筑後地区

筑豊地区

佐賀 大分

中学校:201校+学習塾4校

パンフレットの配布・3年生の教室に学校説明会の案内掲示のほか、昨年度より、「高専を知ってくれん会」(「進路相談室」改め)の案内を1,2年生の教室掲示を依頼してもらうようにしました。

14

案内ポスター(1,2年生の教室掲示をお願いしています。)



「高専を知ってくれん会」を実施します!

★久留米高専を知っていますか?

「高専ってどんな学校?」、「入学試験は?」

学生生活・入試・就職・大学進学など、

1,2年生も歓迎です!

ずばり答えます!

日時:11月3日(土)10時~16時

場所:久留米高専 D3教室

お問い合わせ:教務係 ☎(0942)35-9315-9316

事前申込は不要です。

詳しくは **久留米高専**

検索



久留米高専は5つの専門学科からなる**国立**の高等教育機関です

機械工学科 Mechanical Engineering

エネルギーを作る機械 壊れない機械を作る 材料学

人間に代わって様々なものを動かし人間にはできない仕事をするそれが機械です

電力・送電工学 機械設計・工作学 設計する

運ぶ機械 測る工学 "測"を作る機械

電気電子工学科 Electric and Electronic Engineering

エレクトロニクス、情報通信技術(ICT)、電気エネルギー、パワーエレクトロニクスと関連技術等を学びます。

ロボットの制御 家電・スマートフォン

ハードウェアの学習 電子回路 センサー 画像・音声認識システム コンピュータ ソフトウェアの学習 コンピューターの制御システム(ロボット) プログラミング

エネルギー・情報通信・自動車・運輸・宇宙技術などの分野に就職や進学をします。英語も話せるようになります。

制御情報工学科で学ぶこと

メカトロニクス系 制御・電子電気・機械

情報系 情報・通信・ネットワーク

制御工学、電気電子工学、機械工学の基礎から応用まで幅広く学びます。

計測・プログラミング、通信・ネットワーク知識や技術についてを幅広く勉強します。

材料システム工学科

材料の開発・設計・製造から、その後の環境対策(検査・検査)や再利用までを「システム」として幅広く学びます!

「材料」という言葉を聞きかして、全ての工業製品・建造物も作ることはできません。「材料システム」工学は、日本の世界の産業を支える大切な技術分野なのです!

NO MATERIALS, NO LIFE!

● 最先端・先端材料・自動車材料・生体材料に詳しく学びたい!

● 最先端技術やアイデアな技術を学びたい!

● 多岐にわたる分野を学んでみたい!

材料システム工学科で学べるよさ①②③

材料の製造・加工を深く学ぶことができます!

- 検査・検査
- 設計・製造・リサイクル
- 分析・評価・最新技術 など

生物応用工学科

化学工業、バイオ工業に必要となる、専門知識及び技術者を養成。産官学連携を軸として、社会に貢献できる**実践的・創造的技術者を育成**する。

1~3年 4~5年

化学工業 工学部・理学部へ編入

バイオ工業 工学部・理学部・農学部へ編入

久留米高専の教育の魅力

「やりたいこと」を通しての成長

- 学問・研究(専門を持った教員と充実した研究設備)
- 多様な背景を有する優れた教員
- 30%以上が民間企業等の経験有り
- 専門学科教員のほとんどが博士号を保有

○ 数千円分の基礎も使えます。

○ 学会発表もできます。

X線光電子分光分析装置 核磁気共鳴装置(NMR)

久留米高専は就職・進学に強い!!

就職

- 豊富な就職先(求人数:学生一人あたり35社)
- 学校推薦であるため、内定率が高い!
- 就職率100%!

進学

- 多くの国公立大学工学部等が3年次編入枠有。
- 複数大学が受験可能。
- 専攻科から大学院への進学実績多数。

学校説明会：本校を知ってもらうために

日にち	場所	参加者	Δ	備考
9/8	佐賀市	41名	-31名	今年度単独開催
9/29	福岡市	130名	-30名	有明との合同
10/13	本校	347名	-35名	見学会
11/3	本校	180名	0名	高専を知ってくれん会 (高専祭)
11/10	本校	110名	-10名	プチ見学ツアーを企画

Δ = H30年度参加人数－H29年度参加人数

内容：本校の歴史(歴史と伝統)、教育の特徴(早期専門導入とくさび型教育、実験実習重視)、学校の規模(1クラス40名×5学科×5学年、女子2割)、5学科の特徴、進路について(就職・進学に強い)、学生の生活(早い時期から研究ができる、盛んな部活動・学生会活動)、寮について等

少子化を反映してか、全体的に参加者が減っています(涙)。

10月13日：学校説明会・見学会

全体の説明とともに学科の紹介と施設見学

学科	見学場所
機械	材料力学実験室、熱工学実験室、流体実験室、設計工学研究室・機械要素設計実験室
電気	電子通信実験室、総合実験室、電気機器・自然エネルギー実験室、
制御	プロセス制御実験室、電気電子機器実験室、画像処理実験室、知識工学実験室、システム制御実験室
生化	情報化対応室、C2教室、有機機能化学実験室、培養工学実験室、クリーンルーム・恒温培養室・低温室
材料	材料プロセス工学研究室、ナノマテリアルデザイン研究室、構造材料物性研究室、機能材料化学研究室
共通	機械加工実験実習室、溶接・成形実習室、鋳造実習室、造形実習室、情報処理センター、図書館、ウェーブホール

各学科が工夫を凝らして、受検生の獲得に努めています。

入試説明懇談会：進路指導の先生のために

日にち	場所	参加者	△	募集要項
10/22	本校	52名	-7名	516部
10/23	福岡	55名	+8名	333部
10/24	佐賀	13名	+7名	81部

△ = H30年度参加人数 - H29年度参加人数

全体説明のほか、募集要項の配布し、その記入の注意点などを説明しています。

小中学生向けの公開講座

8/10:化学への招待(25名)、8/11:青銅鏡を作成しよう!(10名)

8/24:ソーラーカーを作ろう!(24名)、9/8:あなたも1日サイエンティスト(20名)

19

その他：本校訪問・中学校派遣

本校訪問(3件)

日にち	中学校	人数	
6/19	良山	45名	保護者・教員
6/27	牟田山	74名	保護者・教員
9/12	北野総合支所	27名	受講生・職員

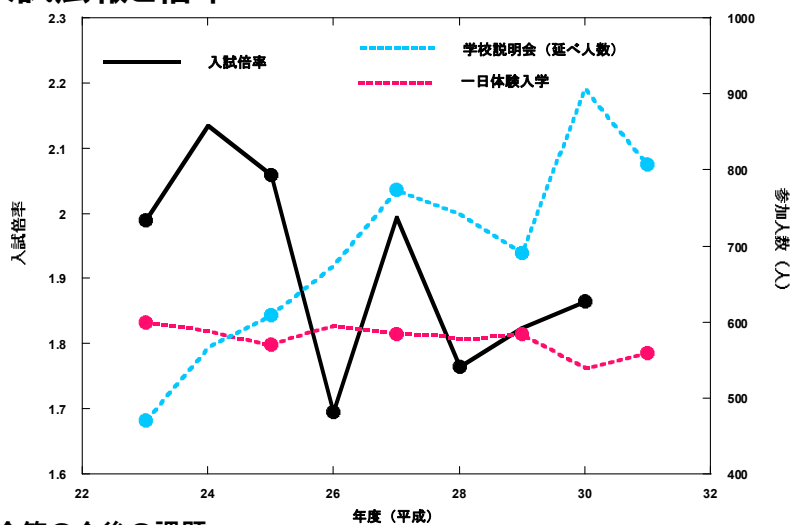
在校生派遣(4件)

日にち	中学校	参加人数	
5/25	江南	45	進路学習会
7/6	荒木		進路学習会
7/6	牟田山		進路学習会
8/28	南陵	72	進路学習会

教員派遣(15件)(教務主事室で対応しています。)

日にち	中学校	参加人数		日にち	中学校	参加人数	
6/8	鳥栖	24	高校説明会	9/14	田代	21	高校説明会
6/11	富士	22	高校説明会	10/11	背振	19	高校説明会
6/15	基山	40	高校説明会	10/20	学思館(塾)		進路相談会
6/15	鳥栖西	24	高校説明会	11/2	城南	205	高校説明会
7/4	筑山		親子進路学習会	11/8	甘木		進路相談会
7/10	筑紫野南	100	高校説明会	11/8	南陵	66	進路説明会
7/14	成穎	140	合同進学説明会	12/1	セイコーゼミナール(塾)		高校合同説明会
8/28	筑後	25	高校説明会				

入試広報と倍率



説明会等の今後の課題

- 1) 低学年向けの企画の必要性 (今後のために。)
- 2) 参加者=中学生×2.5(保護者係数) (いかに中学生に興味を持ってもらうか。)
- 3) 質問に「どの学科が良いですか？」(学科を知ってもらう企画)

21

まとめ

1. 学校の概況

5学科・5学年+専攻科・2学年=1125名

筑後41%, 福岡44%, 女子20%. 教員71名+職員44名

2. 入学志願者

志願倍率1.9倍 → 少子化を反映し、右肩下がり。

倍率の確保が急務

3. 入試広報

1日体験入学・学校説明会・入試説明懇談会・教員派遣

受検生だけでなく、高専を知ってもらう工夫が必要

学科の内容を知ってもらう企画が必要

22

説明資料

就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて

キャリア支援室長 越地尚宏

「就職・進学状況とキャリア支援の取り組みについて」



キャリア支援室長
越地尚宏（こしじなおひろ）
※電気電子工学科 教授

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外部評価委員会

三つの方針

久留米高専HPより

久留米高専では、各学科及び専攻科で以下の三つの方針を掲げています。

- アドミッションポリシー（入学者の受入れに関する方針） → 高専への**入口**
- カリキュラムポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針） → 高専での**教育課程**
- ディプロマポリシー（卒業の認定に関する方針） → 高専からの**出口**

これを満足するようにカリキュラム編成/
科目設定/科目評価/卒業査定会議

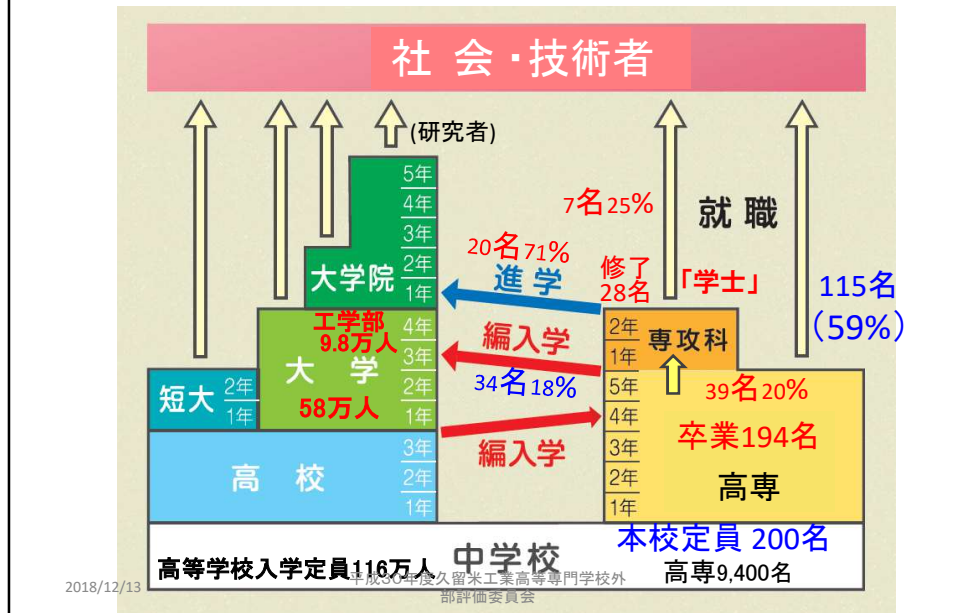
本科・専攻科	学科名及び専攻名
本 科	機械工 学 科
	電気電子工 学 科
	制御情報工 学 科
	生物応用化学 科
	材料システム工 学 科
専攻科	機械・電気システム工学専攻/物質工学専攻

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外部評価委員会

高専卒業/修了後の進路

数字は 2018.3 卒業・修了



キャリア支援室とは

- 昨年度設立（今年度で2年目）
- 従来の就職委員会（各学科就職主任教員から構成）を発展
 - （1）就職を主としつつ、進学も含む進路全体をサポート
 - （2）低学年も含む高専生活全体を通して、学生が自身のキャリアパスを確立するようにサポート

<キャリア支援室委員会構成>

- キャリア支援室長
- キャリア支援室長補（各学科就職主任）
- 一般科目（文科理科各一名）
- 担当事務部（学生生活支援係）

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外部評価委員会

進路指導／支援に関する ハードウェア(設備／スペース等)

各専門学科毎に進路指導室(スペース)を配置

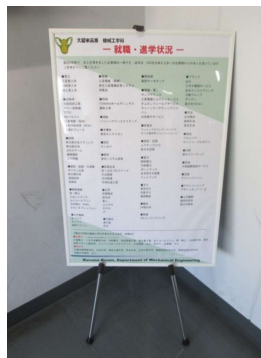
- 各種書籍(SPI対策、企業情報、各種就職対策本)
→後援会の進路指導費による支援
- 求人票や企業資料(企業別にナンバリング)
- 数年にわたる学生受験記録のストック(就職／進学)
- (情報収集のための)パソコンやプリンター複合機等

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

進路支援のサポート体制(ハード)

【機械工学科】



2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

進路支援のサポート体制(ハード)

【電気電子工学科】



2018/12/15

久留米工業高等専門学校外部評価委員会

進路支援のサポート体制(ハード)

【制御情報工学科】



2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外部評価委員会

進路支援のサポート体制(ハード)

【生物応用化学科】



2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外部評価委員会

進路支援のサポート体制(ハード)

【材料システム工学科(材料工学科)】



2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外部評価委員会

進路支援のサポート体制(ハード)

【図書館における就職関係書籍の開架】



進学について

<本科からの進学>

- 大学／高専専攻科とも**推薦入試**(一部大学のみ／専攻科は前期のみ)と**一般入試** ※大学によっては2年次に編入も
- **複数校受験可能**
- 専攻科受験志望が増加→狭き門
- 5年クラス担任:各大学へ提出する内申書等を執筆

<専攻科からの進学>

- 専攻科生の多数が大学院に進学

<学校のサポート>

- 5年担任や教員による進路アドバイス
- 科目担当教員による指導
- 各大学／各大学院担当教員の本校来校による学内進路説明会の開催

学生は秋ぐらいから次年度受験に向けて準備

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外部評価委員会

(例) H30年度開催の進学説明会

大学・大学院説明会

期日	時間	大学名	対象	事項
1 5月7日	月 15:00～	広島大学	専攻科生	大学院進学説明会
2 10月17日	水 16:30～17:30	大阪大学工学研究科	専攻科生・本科4・5年生	大学院進学説明会
3 11月14日	水 16:00～17:00	長岡技術科学大学	本科生・専攻科1年	学校説明会
4 11月21日	水 15:40～16:40	豊橋技術科学大学	本科生・教員面談	学校説明会
5 12月4日	火 14:00～	九州工業大学	本科3・4年生	編入学説明会
6 12月5日	水 16:30～17:30	奈良先端大学院	専攻科生	大学院進学説明会
7 12月12日	水 16:30～17:30	九大システム情報科学府	専攻科生	大学院進学説明会
8 12月12日	水 16:30～17:30	九工大 生命体工学研究科	専攻科1年	大学院進学説明会
9 12月13日	木 16:30～17:30	熊本大学	専攻科1年・本科学士	工学系説明会
10 12月19日	水 16:30～17:30	東工大大学院	専攻科1年・本科3年	大学院進学説明会

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外部評価委員会

本科卒業生 編入学先 平成24～平成29年度

卒業年度	24	25	26	27	28	29
長岡技科大	3	6	2			
豊橋技科大	8	9	6	10	7	3
室蘭工大					1	1
東北大学				3		
筑波大学	2	1	2	2	4	
千葉大学	1	1	1	1		1
東京大学	2					
東京工業大学	1	4	3	1	2	1
東京農工大学		2				
電気通信大学				1		
横浜国立大学		1	1			
首都大学東京	2	1	1			
名古屋大			2	1		
大阪大学	2			1	1	1
神戸大学			1	2	1	1
岡山大学				1		
広島大学	2	1	1	1		
その他					1 ^{a)}	4 ^{b)}

卒業年度	24	25	26	27	28	29
九州大学	7	7	5	11	4	7
九州工業大学	11	6	5	8	6	5
佐賀大学	7	2		2	2	3
大分大学						
熊本大学	3	5	6	4	3	6
宮崎大学	1				1	
鹿児島大学	1		1		2	1
琉球大学	1		1			

芝浦工大				1		
関西大学				1	1	
福岡大学					1	
九州造形短大	1					

大学合計	57	50	42	51	37	34
------	----	----	----	----	----	----

本校専攻科	28	30	33	29	28	39
-------	----	----	----	----	----	----

a) 奈良女子大。b) 山口大、福井大、和歌山大、京都工芸繊維大。

専攻科修了生 進学先大学院 平成23～平成29年度

修了年度	23	24	25	26	27	28	29
長岡技科大			1				
北陸先端技科大			2			2	
奈良先端技科大						1	
北海道大学		1	1				
東京大学	1	1	1			1	2
東京工業大学	2	1	4	1	2		5
電気通信大学							
筑波大学	1	1			1		
名古屋大学				1			
京都大学		1	1	2			
大阪大学					2	2	1
九州大学	5	9	5	15	10	12	11
九州工業大学	3	1	4	1	1		
北九州大学					1		
情報科学芸術大学							
早稲田大学			3			2	1
合計	12	15	22	20	17	20	20

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

就職活動(大学生)

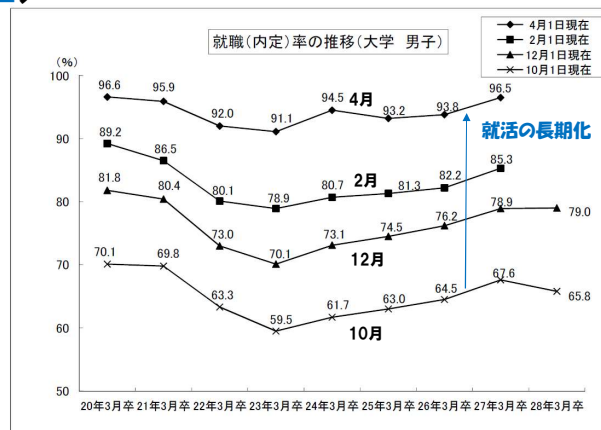
エントリーシート提出

平均26.4枚
通過率65.9%^{注1)}(平均)

筆記試験^{注2)}

面接

内定



注1:通過率は会社によって大きく異なる。
難関企業では10%に満たない企業もある。
注2:旅費は個人持ちが一般的。

厚生労働省調べ
(文系・理系・国立・私立を含んでいます。)

同時に複数の会社にエントリーし、決まる学生は複数の会社から内定をもらうが、決まらない学生はなかなか内定をもらえない。

2018/12/13 平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

就職活動(高専生)

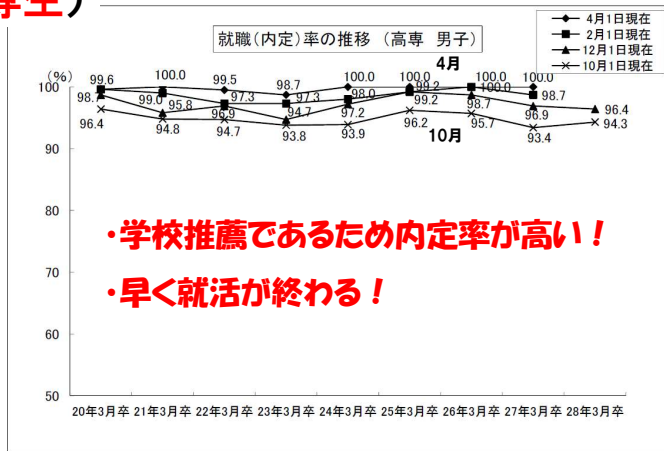
会社の選択

求人倍率40倍

**履歴書の提出
(学校推薦)**

面接・試験

内定



高専のメリット

- ・高専採用枠がある。
- ・推薦採用制度。
- ・旅費は基本会社負担。
- ・手厚い就職支援。
- ・OBの存在。

厚生労働省調べ

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外部評価委員会

高専生独自の就職指導が必要

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外部評価委員会

日経産業新聞 2018年10月19日付 記事
(配付資料参照)

『製造業だけじゃない
高専生の就職先ランキング 高専に任せろ！
2018』

- 日本経済新聞HP 掲載URL
- <https://www.nikkei.com/article/DGXMZO3670048019102018X11000/>

QRコード



2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

久留米高専における就職指導（1）
企業対応

- **本校訪問企業様の面談（企業情報の収集）**
 - 一企業様30分～1時間程度の情報交換
 - 面談基礎情報シートの活用（添付資料）
 - 11月くらいからスタート／2～3月がピーク
 - 多いときは一日 6～7社
 - 年間400社程度の面談をこなしている！！
- **OB説明会のセッティング**
 - ※3／1以前はキャリア教育の一環として実施
 - ⇒2018年度は早い段階でこの希望が多い傾向（後述）

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

久留米高専における就職指導（１） 企業対応

- 求人票の受領／公開
3／1 に求人票を学内開示
一覧表を学内専用HPで公開

このリンクをクリックすると
PDF化した求人票が閲覧
可能

平成30年度～就職情報～ 2018年12月11日 10時25分

No.	会社名	ホームページ	求人票/ 企業情報	募集学科	受付日	来校日
0001		http://www.	↓	AESCMKB	2017/9/25	
0002		http://www.	↓	ES K	2017/10/5	
0003		http://www.	↓	S K	2018/8/17	
0004		http://www.	↓	AESCMKB	2017/10/19	10月19日
0005		http://www.	↓	AESCMKB	2017/10/25	
0006		http://www.	↓	ES K	2017/11/6	
0007		http://	↓	ES K	2018/5/10	
0008		http://www.	↓	AES K	2017/11/24	11月24日

ナンバリングされた各企業に対する求人票原本／添付資料は
各学科就職指導室／または学生課で開示



2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

高専における就職指導（２） 学生指導

各学科就職主任教員中心に
専門学科で手厚いサポートを実施

- 受験する企業／大学等選択の指導
- 履歴書や小論文／レポート／各種試験の指導
- 面談やグループディスカッションの練習

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

高専における就職指導（２） 学生指導

- ビジネスマナー講座（インターンシップ前）
- インターンシップ（一週間程度：４年生、選択科目）
- 各学年における工場見学や４年次の工場見学旅行
- 学科単位でのHR等を利用したOB講演会や５年生による体験講演会
- メディア総研、マイナビ、学研等の主催の高専生のための企業面談会への参加

現在は各専門学科単位の進路指導であり、学校全体としての低学年に対するクラス担任その他と連携してのキャリア教育の手法や内容について模索中

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外部評価委員会

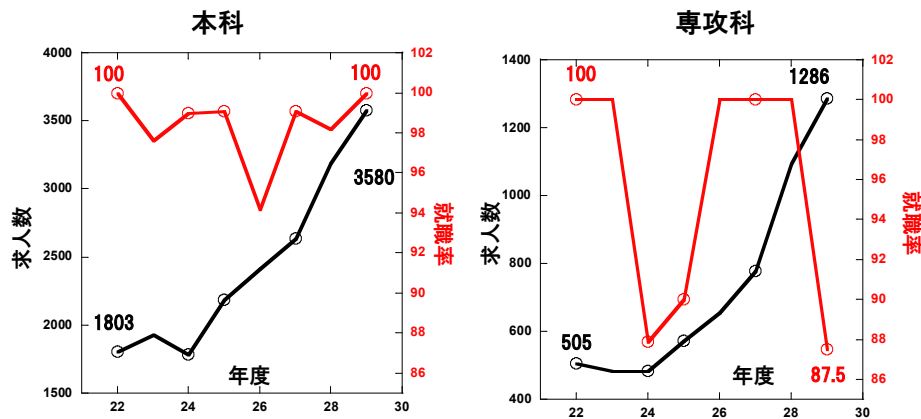
（典型的な）就活スケジュール

- 3月～4月第一週（程度）に受験企業を最終決定
- 4月第2週末（程度）までに書類提出
- ゴールデンウィーク前後に第一回マッチング（人事関係者による）
その際、SPIやクレペリン検査、グループワークや小論文も
- ゴールデンウィーク明けから5月末まで第二回マッチング（社長や役員／技術担当重役）
- 6月：採用試験
- 10月：内定式

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外部評価委員会

求人数・就職率の推移(平成20年リーマンショック以降順調に回復)



		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
本科	求人倍率/ 求職者数	16/121	17/104	19/115	23/98	23/112	28/110	31/115
専攻科	求人倍率/ 求職者数	17/29	15/29	57/9	73/9	77/10	99/11	160/8

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

H29年度卒業者の就職状況① 機械工学科

三菱ケミカルエンジニアリング
 三菱重工業 LIXIL 新日鐵住金
 ブリヂストン NIPPO 東レ ダイキン
 SUBARU(旧富士重工業)
 日産オートモーティブテクノロジー
 コニカミノルタ 本田技研工業 第一精工
 日揮 JR東海 オーレック
 丸三電気 NSプラント設計 日鉄鉱業
 東京アールアンドデー 千代田化工建設
 タマディック 久留米ガス (順不同)

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

H29年度卒業者の就職状況②電気電子工学科

九州電力 関西電力 中部電力
三菱電機プラントエンジニアリング
キャノンメディカルシステムズ 旭化成
富士通九州システムサービス
西部電機 西部電気工業 MJC
大日通信工業 NSウエスト 名村造船所
OGCTS J-POWER
平田機工 三菱ケミカルエンジニアリング
(順不同)

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

H29年度卒業者の就職状況③制御情報工学科

ダイキン 三井ハイテック 九州電力
富士通九州システムサービス 東洋新薬
キャノンシステムアンドサポート 積水化学工業
サントリースピリッツ 第一精工 JR西日本
トヨタ自動車九州 武井電機 メンバーズ
CTCシステムマネジメント 三菱電機ビルテクノサービス
日産オートモーティブテクノロジー
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング
日本ビジネスエンジニアリング 古賀歯車製作所
アイシン・コムクルース 朝倉浄水 (順不同)

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

H29年度卒業者の就職状況④生物応用化学科

シオノギ分析センター ライオン 花王
三井化学分析センター 中外製薬
旭硝子 住友精化 ニプロ 昭栄化学工業
三洋化成工業 アステラスファーマテック
JNC水俣製造所 篠崎 小川香料 ゴードー
ヤクルト本社佐賀工場 昭和電工
大日精化工業 武田テバファーマ
九州サントリーテクノプロダクツ ロイヤル
東洋インキSCホールディングス
日東電工豊橋事業所 JXTGエネルギー
(順不同)

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

H29年度卒業者の就職状況⑤材料工学科

新日鐵住金 三井金属鉱業 LIXIL
SUBARU 日本精工 JX金属
ジェイテクト タンガロイ
半導体エネルギー研究所
日清紡メカトロニクス 国立印刷局
阪部工業 フルヤ金属 高周波熱錬
東研サーモテック アーレスティ
トヨタプロダクションエンジニアリング
東伸熱工 高周波熱錬 東洋鋼鈑
昭栄化学工業 (順不同)

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

H29年度卒業者の就職状況⑥専攻科

<機械・電気システム工学専攻>

ダイハツ工業 川崎重工業
水ing ハイマックス
極東開発工業

<物質工学専攻>

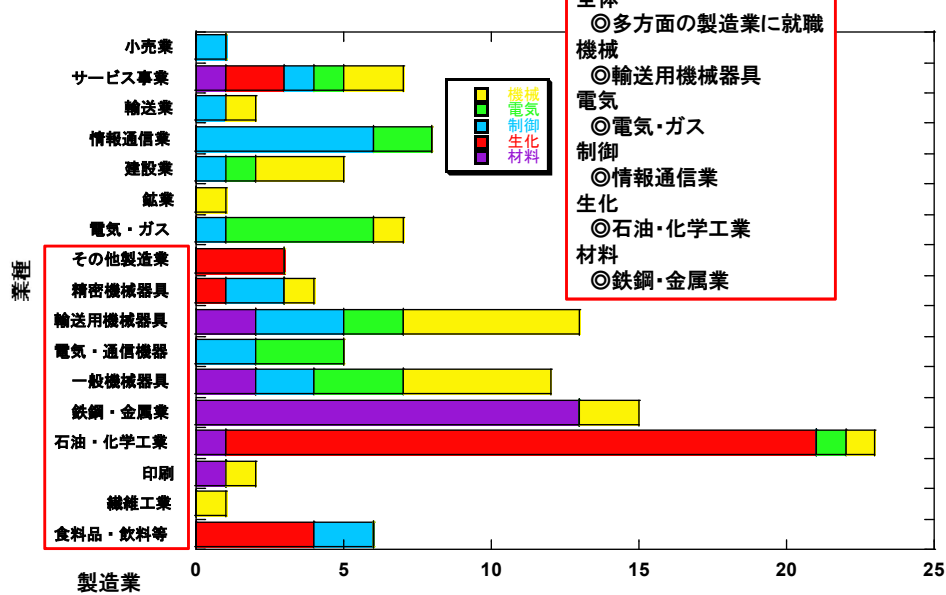
沢井製薬 日東電工

(順不同)

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

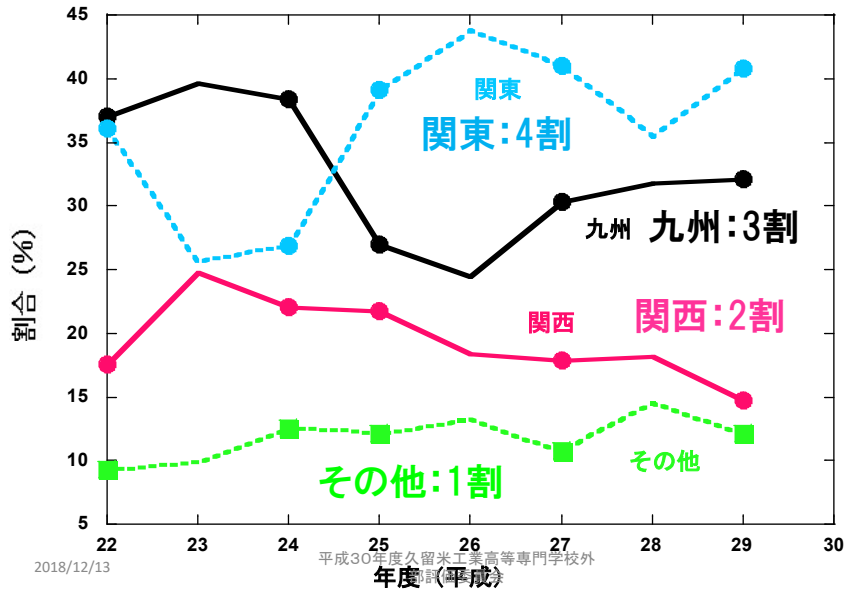
業種別就職者数(平成29年度卒業)



2018/12/13

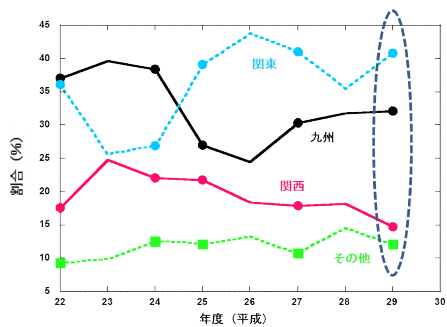
平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

就職した地域



H29年度 本科卒業生 就職先所在地 (ただし卒業生名簿記載の企業様 本社情報より抽出※)

	機械	電気	制御	生化	材料	合計
茨城県				1	1	2
栃木県		1				1
群馬県					1	1
千葉県				4		4
東京都	12	4	5	4	4	29
神奈川県	3		2	3	2	10
富山県				1		1
岐阜県				1		1
静岡県				1	1	2
愛知県	2	1	1	1	3	8
京都府	1			1		2
大阪府	2	2	3	3	2	12
兵庫県		1				1
和歌山県				1		1
広島県		1				1
山口県					1	1
福岡県	5	4	7	2	5	23
佐賀県		1	2	4		7
熊本県		2	2	1		5
大分県				1		1
宮崎県		1				1
合計	25	18	22	29	20	114



※ 実質上の本拠地と相違ある場合あり

福岡=20%

九州=32%

【速報】 H30年度求人・求職・内定状況

		求人、求職、就職内(決)定状況			平成30年9月末現在		
学 科	求人数	求職者		計	内定者		計
		男子	女子		男子	女子	
機 械 工 学 科	887	17	0	17	17	0	17
電 気 電 子 工 学 科	899	13	3	16	13	3	16
制 御 情 報 工 学 科	812	13	5	18	12	5	17
生 物 応 用 化 学 科	565	6	11	17	6	11	17
材 料 工 学 科	597	13	9	22	12	8	20
本 科 小 計	3,760	62	28	90	60	27	87
機 械・電 気 シ ス テ ム 工 学 専 攻	782	7	0	7	7	0	7
物 質 工 学 専 攻	545	3	2	5	3	2	5
専 攻 科 小 計	1,327	10	2	12	10	2	12
計	5,087	72	30	102	70	29	99

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

今年度（及び近年）の傾向（概観）

○就職希望の学生の方が少ない → 進学希望の増加

【H30年度】

機械工学科5年 在籍39名中17人が就職希望(44%) ← 25/44(57%)
 電気電子工学科5年 在籍39名中16人が就職希望(41%) ← 18/35(51%)
 制御情報工学科5年 在籍38名中18人が就職希望(47%) ← 22/40(55%)
 生物応用工学科5年 在籍41名中17人が就職希望(41%) ← 30/40(75%)
 材料工学科5年 在籍39名中22人が就職希望(56%) ← 20/35(57%)

【H29年度】

○企業選択において先輩や知人等からの口コミやコメント等から

選ぶ割合が増加? →前記の新聞記事でも「先輩の動静に極めて関心が高い」

○企業サイドの高専に対する求人熱は ↑↑

→ただし高専卒ならだれでもOKではなくて (広義の) 優秀な学生

→高専生活でどのような体験をしたかを作文で記したりや面接で質問されたりする。

○自己分析力や自己アピール力、コミュニケーション能力に関し学生間で大きな差

○【課題】支援やサポートを要する学生への対応や支援

→JASSO：日本学生支援機構主催のセミナー等で研修や他校の取り組みの情報収集

2018/12/13

平成30年度久留米工業高等専門学校外
部評価委員会

6年間の就職主任と2年間のキャリア支援室長を経ての雑感

高専生は推薦で多くの求人の中から一社しか選べない

(1) 学生が就職時に重視する観点は多様化

○やりがいい、仕事内容（開発orメンテor生産orフィールド等）、勤務地（含：海外）

転勤の有無、福利厚生、企業規模／ネームバリュー、勤務形態

仕事内容、教育システム、オフの様子

○総合職？ スペシャリスト職？ 職種転換の有無 含：大卒との比較

→自分の数年後の姿として、（本校に限らない）高専OB社員の動向に注視

（良い面もある反面、自らの可能性を狭めている面も）

(2) (保護者を中心に) 潜在的地元希望は増えている印象 (少子化？ できれば近くに...)

(3) 技術サービス系が増加 (産業構造や学生意識の変化)

(技術をベースに他者とコミュニケーション)

(4) 専攻科が認知されるに従い、推薦での受験可も増加

(5) キャリア支援のオーバーワーク (大学のキャリアセンターのような専任教職員がいない)

2018/12/ 求人企業対応の増大と求人熱の加熱、学生の指導の負担増

まとめ

○就職 本科59%、専攻科29% →技術者として全国へ
(今後の課題) 低学年からのキャリア教育

○進学 本科38%(専攻科20%) →高い専攻科人気
専攻科71% →有力大学院へ

平成30年度 外部評価委員会報告書

編集 久留米工業高等専門学校

発行 久留米工業高等専門学校
平成31年3月発行

〒830-8555 久留米市小森野一丁目1番1号

TEL 0942-35-9300

URL <http://www.kurume-nct.ac.jp/>
